

# 大分市埋蔵文化財調査年報 5

— 平成 5 年度 —

1994

大分市教育委員会  
下部 資料室用

# 大分市埋蔵文化財調査年報 5

－ 平成 5 年度 －



大分市教育委員会

## 序 文

流麗な清水をたたえる大野川と大分川の二大河川をはじめとする豊かな自然に恵まれた大分市は、大分県の県都として、また東九州の中核都市として発展してきました。

現在、大分市では21世紀に向けての魅力ある都市づくりを展開するため「活き粹大分づくり運動」を推進し、その一環として「自然と史跡を生かした都市」の創造をめざし、国指定史跡・古宮古墳の保存整備事業をはじめとする各種文化財の保護・整備事業にも積極的に取り組んでいます。

市内には貴重な遺跡が数多く見られますが、こうした恵まれた歴史遺産を保護し、活用することで、歴史・文化の香り高いまちづくりに貢献してまいりたいと存じます。

本年報は、平成5年度に実施しました市内における埋蔵文化財に関する事業の概要をまとめ大分市埋蔵文化財調査年報5といたしました。本書が大分市内に所在する埋蔵文化財に対する理解の一助となり、併せてふるさとづくりの資料として少しでもお役に立てれば幸いです。

最後に、今後なおいっそうの文化財保護行政へのご理解、ご協力をお願い申し上げまして、発刊のごあいさつといたします。

平成6年12月31日

大分市教育委員会

教育長 清瀬和弘

## 例　言

1. 本書は大分市域において大分市教育委員会文化財室が平成5年4月1日から平成6年3月31日の間に行った埋蔵文化財に関する事業内容をまとめた年報である。
2. 平成5年度における調査地点は表2および第2図に示している。
3. 本書の執筆は第Ⅲ章　発掘調査内容の概要の項を各担当者が行い、文末に執筆者名を記している。また、第Ⅳ章を除く他の部分については坪根が担当した。
4. 第Ⅳ章　受贈図書目録は、平成5年4月1日から平成6年3月31日の期間中に大分市教育委員会文化財室に受贈された書籍等を掲載した。
5. 第Ⅳ章　受贈図書目録の作成は佐藤亜紀(大分市教育委員会文化財室臨時職員)による。
6. 遺構・遺物の実測、図版の作成等において、渕野玲子・西嶋スミエ・町田ユカリ・阿部真知子・堤美智代・成田千春・原田和代(以上大分市教育委員会文化財室臨時職員)の協力を得た。校正は井口あけみが行った。
7. 本文中に掲載した現場写真は各担当者が撮影した。
8. 本書の編集は讃岐・坪根が行った。

# 目 次

第Ⅰ章	大分市教育委員会社会教育課文化財室概要	1
第Ⅱ章	平成5年度事業概要	3
	1 開発事前審査事業	3
	(1) 平成5(1993)年度の概要	3
	2 発掘調査事業	5
	3 報告書等刊行事業	7
	(1) 報告書刊行事業	7
	(2) 資料整理事業	8
	4 教育普及活動	8
	(1) 遺跡現地見学会	8
	(2) 大分市文化財だより(1993年号)の発行	8
	(3) 研修参加	8
第Ⅲ章	発掘調査内容の概要	9
	・下郡遺跡群F区l・n-5・6地点	9
	・下郡遺跡群H区r・s-22・23地点	11
	・下郡遺跡群I区p-11地点	13
	・下郡遺跡群B区c-12・13地点	15
	・下郡遺跡群H区g・r-20・21地点	17
	・横尾遺跡群B-2.S地点	19
	・横尾遺跡群B-4・5・6地点	21
	・横尾遺跡群B-12・13	23
	・龟塚古墳	25
	・賀来中学校遺跡(4次調査)	27
	・近世府内城下町遺跡(旧若竹公園)	29
	・近世府内城下町遺跡(大分合同新聞社屋建設予定地)	31
	・猪野遺跡	35
	・敷戸城津留遺跡	37
	・光吉・宮崎・曲遺跡	42
	・古国府遺跡群	43
第Ⅳ章	受贈図書目録	44

目 次

## 挿 図 目 次

第1図	地区別事前審査内容	4	第24図	遺構配置図(1/250)	28
第2図	平成5年度調査遺跡位置図	7	第25図	調査地点位置図(1/5000)	29
第3図	調査区全景	9	第26図	調査区全景	29
第4図	全体遺構配置図(1/800)	10	第27図	出土遺物実測図(1/3・1/4)	30
第5図	遺構配置図(1/300)	12	第28図	調査地点位置図(1/5000)	32
第6図	遺構配置図(1/200)	13	第29図	遺構配置図(1/200)	32
第7図	調査地点位置図(1/5000)	14	第30図	SK018出土遺物実測図(1/4)	34
第8図	1号溝充填状況	14	第31図	SK11平面・断面実測図(1/10)	36
第9図	出土遺物実測図(1/6)	14	第32図	SK11出土遺物実測図(1/4)	36
第10図	全体遺構配置図(1/300)	15	第33図	遺構配置図(1/400)	36
第11図	細文上器実測図(1/4)	16	第34図	SK11検出状況(南北より)	36
第12図	貯藏穴炭化物出土状況	16	第35図	出土遺物実測図(1/3)	39
第13図	調査状況	16	第36図	出土遺物実測図(1/3)	40
第14図	全体遺構配置図(1/300)	17	第37図	SX001出土上器小皿分類	40
第15図	1号井戸跡(SE001)出土遺物(1/4)	18	第38図	出土遺物実測図(1/3)	41
第16図	B-2.S地点遺構配置図(1/300)	19	第39図	調査遺跡位置図	42
第17図	SK02出土遺物実測図(1/2)	20			
第18図	SK02充填状況	20	表 目 次		
第19図	B-2.S地点全景	20			
第20図	B-4・5・6地点遺構配置図(1/600)	22	表 1	開発事前審査件数	3
第21図	B-12・13地点遺構配置図(1/300)	24	表 2	大分市平成5年度発掘調査地一覧	6
第22図	龟塚古墳調査トレンチ配置図(1/1000)	26	表 3	遺跡現地説明会開催一覧	8
第23図	1号溝(西方向から)	28	表 4	SX001出土陶磁器一覧	41

## 第Ⅰ章

# 大分市教育委員会文化振興課文化財室概要

### 1. 沿革

昭和51年4月1日 大分市教育委員会社会教育課内に文化財係を設置  
昭和59年6月28日 大分市教育委員会社会教育課文化財係を大分市教育委員会社会教育課文化財室に改組  
平成5年4月1日 大分市教育委員会文化振興課文化財室に改組

### 2. 組織

文化振興課	課長	田政和	司博則
文化財室	参事官	良和	藏夫
	主査	光	司み也
	専門員	藤岐	太郎
	主任技師	昇丸	一
	主技師	徳根	
	技師	坪邊	
	技術員	池潤	
		塙	

### 大分市文化財室設置規則(抜粋)

昭和59年6月28日教育委員会規則第5号  
改正昭和62年9月29日教委規則第16号  
平成5年3月30日教委規則第13号

#### (設置)

第1条 文化財行政の円滑な推進を図るため大分市文化財室(以下「室」という。)を設置する。

#### (組織)

第2条 室は、教育委員会事務局文化振興課に所属するものとする。

(平5教委規則13・一部改正)

#### (分掌事務)

第4条 室の分掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 文化財調査委員に関すること。
- (2) 文化財に関すること。
- (3) 文化財保護思想の普及啓蒙に関すること。

#### 附則抄

##### (施行期日)

1 この規則は、昭和59年7月1日から施行する。

##### 附則(昭和62年教委規則第16号)

この規則は、昭和62年10月1日から施行する。

##### 附則(平成5年教委規則第13号)

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

### 3. 大分市文化財調査委員会

#### 大分市文化財調査委員会委員(平成6年4月1日現在)

	【氏名】	【勤務先・職名】
委員長	佐藤 真一	前荷揚町小学校長
副委員長	豊田 寛三	大分大学・教授
	橋本 操六	大分大学・非常勤講師
	北野 隆	熊本大学・教授
	日高 稔	大分県教職員第二課・参事

【担当】  
動植物  
近世  
中世  
建造物  
地質鉱物

橋	昌	信	別府大学・教授
西別府	元	日	広島大学・助教授
宗	像	一	大分県立芸術会館・主任学芸員
友	健	子	大分県立芸術会館・主任学芸員
小	永	尚	大分県文化課・主幹
	泊	立	
		矢	

考古埋蔵
考古
美工
代術
芸俗
民

## 大分市文化財調査委員会条例

昭和51年3月29日条例 第4号  
改正 平成4年12月21日条例 第41号

### (設置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項の規定に基づき、大分市教育委員会(以下「教育委員会」という。)に大分市文化財調査委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

### (任務)

第2条 委員会は、教育委員会の諮問に応じて、文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議する。

### (組織)

第3条 委員会の委員は、10人以内とし、学識経験者のうちから教育委員会が委託し、又は任命する。

2 委員は、非常勤とする。

### (任期)

第4条 委員の任期は、2年とし、その欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。

### (委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員が互選する。

2 委員長は、委員会の会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代行する。

### (会議)

第6条 会議は、必要に応じ、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決をすることができない。

3 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

### (部会)

第7条 委員会に、教育委員会規則の定めるところにより、部会を置くことができる。

### (庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育委員会文化振興課において処理する。

(平4条例41・一部改正)

### (委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

### 附 則 抄

#### (施行期日)

1 この条例は、昭和51年5月1日から施行する。

附 則(平成4年条例第41号)抄

#### (施行期日)

1 この条例は、平成5年4月1日から施行する。

文化財 審査要

## 第Ⅱ章 平成5年度事業概要

### 1. 開発事前審査事業

#### (1) 平成5年(1993)度の概要

表1は平成5年度における開発申請内容を示したものである。

申請総面積は6,492,414m<sup>2</sup>、総申請件数172件を数える。

その内訳をみると、開発許可申請121件、土地売買等に関する届出48件、大規模土地取引に関する届出3件となっている。平成4年度分との比較を行うと、総件数は着実な増加を示している。平成5年度では申請総面積が約50パーセントの減少となっているが、これは平成4年度申請面積中の約半数を大規模土地取引に関する届出が占めている点に大きく起因している。これらの状況はバブル経済の名残を示すものであり、平成3年度の総申請面積が5年度と大差のない6,946,059.62m<sup>2</sup>である点をみても突発的な異常な状況であることを理解することができる。実際、土地売買等に関する届出、および大規模土地取引に関する届出については、通常、次年度あるいはその翌年度に開発許可申請へと移行しその数字に顕著に反映されるものであるが、平成5年度への移行は認められない。この現象は大規模開発の多くがいわゆるバブル経済の崩壊によって現実化しえなかった状況を示しているものと考えられる。

しかしながら、上述のように大規模土地取引に関する届出は減少しているものの、土地売買等に関する届出が倍増している。このようなことから大規模団地造成に代表される大規模開発の減少が看取される反面、来年度以降において小・中規模の開発を中心とした許可申請件数の激増が見込まれる。このことは、比較的周知遺跡の少ない郊外を対象としていた大規模開発の場合と異なり、中・小規模開発が周知遺跡の集中する都市中心部周辺を主たるターゲットとすることを考慮すると、実質的な調査対象件数の激増が予想される。

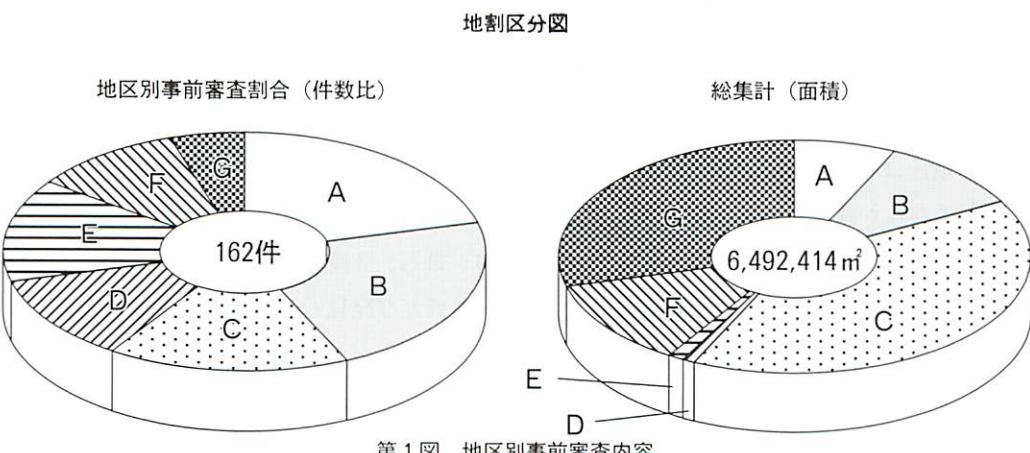
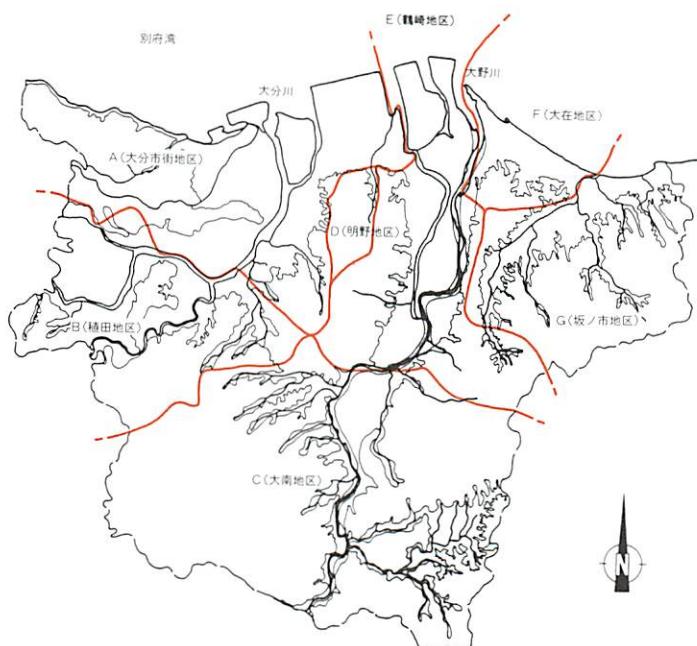
また、地域別の申請件数についてみても、平成4年度と同様に周知遺跡の約8割が集中する大分市街地区(A)、植田地区(B)での割合が極めて高く、調査対象件数増加の誘引にもなっ

表1 開発事前審査件数

地区名	開発許可申請		土地売買等に関する届出		大規模土地取引に関する届出		総合計			
	件数	面積	件数	面積(m <sup>2</sup> )	件数	面積(m <sup>2</sup> )	件数	件数比	面積(m <sup>2</sup> )	面積比
A－大分市街地区	22	380,459	12	81,157	0	0	34	21%	461,617	7%
B－賀来・植田地区	30	152,299	3	9,394	3	477,069	36	22%	638,762	10%
C－大南・松岡地区	16	1,588,684	10	1,007,800	0	0	26	16%	2,596,484	40%
D－明野地区	14	34,812	5	53,726	0	0	19	12%	88,538	1%
E－鶴崎地区	16	50,610	7	30,248	0	0	23	14%	80,858	1%
F－大在地区	8	271,262	8	454,940	0	0	16	10%	726,201	12%
G－坂ノ市地区	5	1,860,218	3	39,736	0	0	8	5%	1,899,954	29%
合計	111	4,338,344	48	1,677,001	3	477,069	162		6,492,414	

ている。

なお、図1は大分市域を7区分したものであるが、昨年度までの区分とは若干の変更がある。すなわちこれまでの区分は自然地理的要因を主たる属性として区域の設定をおこなったものであったが、今回の区分は大分市の支所、出張所等を核とする行政区画区分を援用した。今回の変更により明野地区周辺のエリア設定に若干の差異が生じているが、平成元年度からの開発エリア別のデータについて再度の検討を試みたところ、おおむね今回の設定エリアでの結果と整合し、資料比較において支障のない点を確認している。



第1図 地区別事前審査内容

## 2 発掘調査事業

本年度市域内で実施された発掘調査件数は43件である。その内訳は試掘確認調査が27件、本格調査10件を数える。内訳は第2図に示すとおりである。

以下において本年度（平成5年度）の発掘調査の成果を概観する。

### 〈旧石器時代・縄文時代〉

今年度も旧石器時代・縄文時代の良好な遺構・遺物は確認されていない。唯一下郡遺跡群において縄文時代後期初頭に編年される中津式併行期の土器破片が弥生時代遺物に混在して少量出土しているにすぎない。

### 〈弥生時代〉

弥生時代の遺構・遺物は下郡遺跡群・横尾遺跡群・賀来中学校遺跡・猪野遺跡等で検出されている。下郡遺跡群では弥生時代中期を中心に該期の貯蔵穴を検出し、比較的良好な土器資料を得ることができた。猪野遺跡では土器蓋土壙墓1基を検出しているが、これは墓制の面からも市内初事例として注目されるのみならず、大分平野にあって資料の乏しい後期初頭の土器資料としても貴重である。下郡遺跡群では後期後半～終末時期の集落跡が調査された。これは既往の調査によって確認されていた弥生時代環濠の内部集落に相当し、部分的ながらその様態を明らかにすることができた。遺構では該期の住居跡を多数検出した他、壺棺墓2基を確認した。同種の墓制は市内大在浜遺跡（弥生時代終末～古墳時代初頭）・賀来中学校遺跡（後期後半）に次ぐ3例目の検出例であるが、今回の壺棺は弥生時代後半～終末に編年されるもので時期的に両者の中間に位置づけられるものである。

### 〈古墳時代〉

当該期のものでは、県指定史跡亀塚古墳の調査をあげることができよう。今回の調査は古墳整備の事前調査として実施されたものであり、墳丘の築造状況の把握、亀塚古墳の北側に所在が確認されていた小亀塚古墳の測量調査等を実施した。

小亀塚古墳に関しては長さ35m以上の規模を測る前方後円墳であることが明らかとなった。また、墳丘は2段に築成され、葺石、埴輪の存在は確認されていない。墳丘上では1基の石蓋土壙墓の存在も確認されている。

亀塚古墳に関しては、墳丘のトレンチ調査により、葺石、3段築成の状況、埴輪列の存在などを明確にすることができた他、今回の調査における新たな発見として、墳丘西側のくびれ部付近において確認された方形の造り出しの存在をあげることができよう。この部分にも円筒埴輪列がみられる他、盾形、家形などの形象埴輪も散見される点が注目される。

表2

## 大分市平成5年度発掘調査地一覧(試掘調査を含む)

調査番号	遺跡名	所在地	地図番号	調査面積	調査原因	調査期間	担当調査員
9301	下郡遺跡群 F区 e~n-5~6地点 H区 rs-22~23地点 I区 p-11地点 B区 c-12~13地点 H区 g~r-20~21地点 I区 p-11~12地点 I区 p-13~14地点 H区 p-21地点 G区 r~s-4地点 G区 o-4~5地点 G区 m-3~4地点	大分市大字下郡	A	3,100m <sup>2</sup> 1,200m <sup>2</sup> 70m <sup>2</sup> 310m <sup>2</sup> 589m <sup>2</sup> 110m <sup>2</sup> 246m <sup>2</sup> 41m <sup>2</sup> 120m <sup>2</sup> 81.5m <sup>2</sup> 48m <sup>2</sup>	区画整理	9305~9403	坪根伸也
9302	横尾遺跡群 B-2, S地点 B-4地点 B-5地点 B-6地点 B-12~13地点 D-6, N地点 D-6, E地点 C-22~23, E地点 D-6, N2地点 C-12~13地点 D-7, N地点	大分市大字横尾	D	400m <sup>2</sup> 300m <sup>2</sup> 450m <sup>2</sup> 616m <sup>2</sup> 760m <sup>2</sup> 130m <sup>2</sup> 54m <sup>2</sup> 240m <sup>2</sup> 225m <sup>2</sup> 70m <sup>2</sup> 300m <sup>2</sup>	区画整理	9305~9403	池邊千太郎
9303	龟塚古墳	大分市大字里	G	650m <sup>2</sup>	史跡整備	9307~9312	讃岐和夫
9304	賀来中学校遺跡	大分市大字賀来	B	450m <sup>2</sup>	学校増改築	9307~9308	池邊千太郎
9305	府内城・城下町遺跡	大分市府内町	A	500m <sup>2</sup>	公園整備	9309~9310	塔鼻光司
9306	府内城・城下町遺跡	大分市府内町	A	600m <sup>2</sup>	民間開発(ビル建設)	9304~9305	豊崎和洋・坪根伸也
9307	猪野遺跡	大分市大字猪野	D	600m <sup>2</sup>	民間開発(マンション建設)	9305~9306	讃岐和夫
9308	敷戸城津留遺跡	大分市大字鶴野	C	280m <sup>2</sup>	民間開発(宅地造成)	9308	塔鼻・坪根伸也
9309	光吉・宮崎・曲遺跡	大分市大字光吉・宮崎・曲	B+A	(198,100)m <sup>2</sup>	高速道路建設(試掘確認)	9308~9403	高橋徹・塔鼻光司
9310	古国府遺跡群 (試掘調査)	大分市大字古国府	A	150(6,000)m <sup>2</sup>	街路築造(試掘確認)	9306~9403	塔鼻光司
					調査日時		
1	試掘(民間)	大分市大字市字大坪10番地	B		医療施設建設	930409	
2	試掘(民間)	大分市大字猪野字小路585外	D		マンション建設	930416	
3	分 布(民間)	大分市大字横尾字井ノ久保624-1	D		ゴルフ練習場	930416	
4	分 布(民間)	大分市旦野原字用作	B		宅地造成	930419	
5	試掘(民間)	大分市大字角子原字花田	F		宅地造成	930519	
6	試掘(民間)	大分市大字下郡	A		個人住宅	930520	
7	試掘(公共)	大分市大字松岡	E		学校関連施設建設	930526	
8	試掘(民間)	大分市大字羽田字穴井前	A		アパート建設	930531	
9	試掘(民間)	大分市大字津守字山崎	A		老人医療施設	930601	
10	試掘(民間)	大分市大字羽屋	A		病院建設	930622	
11	試掘(民間)	大分市大字市尾蔵並	G		宅製造成	930629	
12	試掘(民間)	大分市大字光吉字木ノ元	B		ガソリンスタンド建設	930715	
13	試掘(民間)	大分市大字田尻字市木	B		貸店舗	931008	
14	試掘(民間)	大分市大字津守字宮ノ後	A		マンション建設	931008	
15	試掘(民間)	大分市上野丘東	A		宅地造成	931115	
16	試掘(民間)	大分市大字羽屋字川小田	A		宅地造成	931126	
17	試掘(民間)	大分市大字東上野	G		宅地造成	931129	
18	試掘(公共)	大分市大字野田	B		道路建設	931208	
19	試掘(公共)	大分市大字野田	B		道路建設	931209	
20	試掘(民間)	大分市大字上宗方	B		マンション建設	931220	
21	試掘(民間)	大分市顯徳町	A		個人住宅	931222	
22	試掘(民間)	大分市大字古国府	A		アパート建設	940107	
23	試掘(民間)	大分市大字羽屋字豆田	A		宅地造成	940108	
24	試掘(民間)	大分市大字志村字北浦	F		宅地造成	940125	
25	試掘(民間)	大分市大字浜	F		店舗建設	940201	
26	分 布(民間)	大分市大字東明野	D		マンション建設	940224	
27	試掘(民間)	大分市大字賀来字門田	B		個人住宅	940228	

### 〈歴史時代〉

敷戸城津留遺跡では、自然開析になる谷部の堆積土層中から多量の中世輸入陶磁器、土師器甕等が出土した。これらの中には瀬戸内海沿岸各地で作られた鉢、甕等が散見され、中世瀬戸内における広域流通の一端を示す資料として重要である。

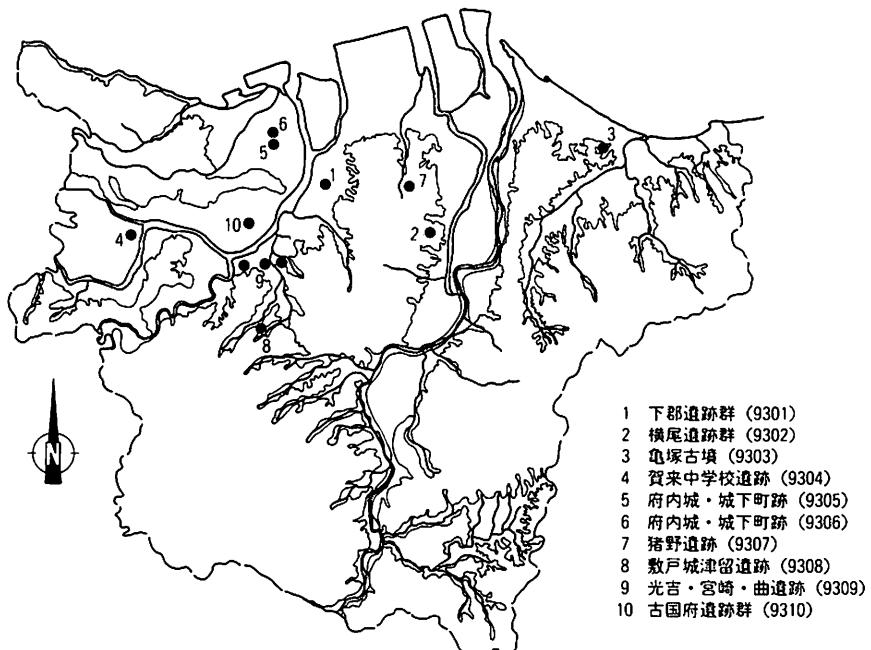
また、当地は中世敷戸氏の本貫地の可能性も指摘されている地点であり、今回の遺物群との関連が注目されるところである。

### 3 報告書等刊行事業

本年度は8遺跡の資料整理と下記の調査報告書を刊行した。

#### (1) 報告書刊行事業

「亀塚古墳」 保存整備事業 第1次発掘調査概報	1994年 大分市教育委員会
「猪野遺跡」 マンション建設に伴う発掘調査報告書	1994年 大分市教育委員会
「下郡遺跡群」 大分市下郡地区土地区画整理事業に伴う発掘調査概報(4)	1993年 大分市教育委員会



第2図 平成5年度調査遺跡位置図

## (2) 資料整理事業

本年度は前述の報告書刊行に伴う資料整理の他、以下の9遺跡の資料整理を実施した。

調査番号	遺跡名	所在地	調査番号	遺跡名	所在地
9044	久原遺跡	大分市大字久原	9306	府内城・城下町遺跡	大分市府内町
9301	下郡遺跡群	大分市大字下郡	9309	敷戸城津留遺跡	大分市大字鷲野字城津留
9302	横尾遺跡群	大分市大字横尾	9310	府内城・城下町遺跡	大分市府内町
9303	亀塚古墳	大分市大字里	9311	猪野遺跡	大分市大字猪野

## 4 教育普及活動

### (1) 遺跡現地説明会

本年度は亀塚古墳において遺跡現地見学会を実施した。

表3 遺跡現地説明会(見学会)開催一覧

調査番号	遺跡名	所在地	開催日	参加人数
9303	亀塚古墳	大分市大字里	平成5年10月12日	約300人

### (2) 大分市文化財だより1993年号の発行

平成3年度から発行を続けている文化財だよりの1993年号(第3号)の作成、配布を行った。本号は「埋蔵文化財ってなんだろう?」と題して埋蔵文化財の特集記事を掲載した。また、遺跡地内での土木工事を行うにあたっての埋蔵文化財に関する諸手続きに関しての一項目を設け、法的手続きを含めた事務手続きのフロー(流れ)を明示することで周知のための一手段を講じた。

### (3) 研修参加

奈良国立文化財研究所による埋蔵文化財技術者専門研修「寺院官衙遺跡調査課程」に職員1名を派遣した。

### 第Ⅲ章 発掘調査内容の概要

1 下郡遺跡群 F区ℓ～n-5・6地点	調査担当 坪根伸也	調査面積 3,100m <sup>2</sup>	調査期間 93.06.01～93.08.12	地域 A
------------------------	--------------	-----------------------------	---------------------------	---------

今回の調査区は大分市大字下郡字堀向に位置し、下郡遺跡群の北限に近い地域にあたる。調査対象範囲は部分的に水田耕地造成時に地下げが行われており、そのために遺構が消失している部分も認められた。

検出遺構には溝状遺構・土坑・柱穴・井戸跡・総柱倉庫跡・掘立柱建物跡がある。

溝状遺構は複雑な切り合いをみせながら、調査区全域に検出される。

1号溝は調査区の西側部分中央を横走する溝状遺構である。出土遺物は概して少ないが、埋土内から15世紀に比定される備前焼すり鉢片が出土していることからほぼこの時期の所産と考えることができる。他に砥石・土錘・奈良時代の土師器・須恵器破片が出土している。

2号溝はB2区で東方向に屈曲し、E2区でさらに北方向に曲がる溝状遺構である。埋土内底面から8世紀後半に比定される土師器破片が出土している。この溝は1号溝とB2区で切り合い、1号溝構築以前に作られていたことが判明した。出土遺物の様相から奈良～平安時代に作られた可能性が高い。

3号溝は南北方向に走る溝状遺構であり、C2区で1号溝に接続する。

4号溝は幅約1.8mを測る溝状遺構であり、E1区に集石がみられ、この部分から若干量の遺物が出土している。唐津系京焼風陶器底部破片等が出土しており、これらの遺物から、ほぼ17世紀後半以降の所産年代が考えられよう。

6号溝・7号溝・8号溝はいずれも複数の小溝が複雑に切り合う状況が認められる。各溝相互の切り合い関係の詳細は不明であるが、溝埋土の比較から同時に存在していた可能性が高いと考えられる。出土遺物には煙管・染付片が出土している。陶胎染付片が主体を占めており、18世紀前半以降の所産と判断される。

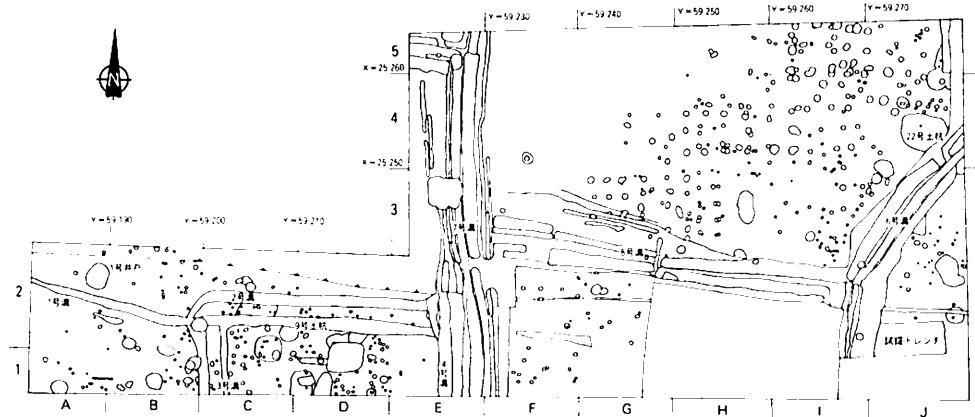
土坑に関しては30基あまり検出した。いずれの土坑も8世紀～9世紀に比定される土器破片

を内包する。なかでも9号土坑と22号土坑は比較的良好な状態で遺物を出土し、当該時期の土器相の把握に際して貴重な資料を提供した。

井戸跡はA2区において検出した。地表下約2mまで掘り下げたがいまだ底面には達していない。夥しい湧水のため、この時点で掘り下げを断念した。出土遺物が少なく、時期の特定は困難であるが、磁器の破



第3図 調査区全景



第4図 全体遺構配置図 (1/800)

片が1点出土しており中世以降の所産と考えられる。

奈良時代の掘立柱建物跡は2間×2間の総柱倉庫跡1棟を含む総計4棟を確認した。2種の建物配置が認められることから、時期差を有する2時期の建物群の存在が想定されよう。

以上の状況を整理すると、当地域にはおおよそ以下に示す3時期の遺跡形成が認められる。

I期 奈良時代(8世紀後半)

II期 中世

III期 近世(17世紀後半～18世紀前半)

発掘調査  
下部追跡群  
P図-n-5-6

I期は掘立柱建物跡・土坑・溝状遺構(2号溝)が相当する。建物配置から2時期の建物群の存在が考えられ、この結果はこれまでの周辺地域の調査所見を補足するものである。今回の調査所見により、広範囲に整然とした建物配置の状況をより具体的に把握することができ、遺跡群の性格究明に大きく資することとなった。

II期は井戸跡・溝状遺構(1号溝)が相当する。井戸跡の時期特定は行えないが、1号溝は出土遺物からほぼ15世紀代の所産年代が考えられる。柱穴から中世に比定しうる遺物の出土は確認していないものの、調査区全面において検出している柱穴のいくつかはこの時期のものとも考えられよう。

III期は溝状遺構(4・6・7・8・9号溝)が相当する。6・7・8・9号溝は埋土状況からほぼ同時期の所産である可能性が高い。出土遺物からの判断では、4号溝は他のものに若干先行するようである。7・8号溝は完結しない大小の溝の組み合わせにより構成されており、水路等の利用目的は想定しがたい。唯一6号溝最深部に流水の痕跡があり、水路的な用途が考えられるものの、溝総体としての性格は不明である。これらは、当地の字名「堀向」との関連が注目され、今後の周辺調査において留意すべき課題といえよう。

(坪根 伸也)

2 下郡遺跡群 H区r・s-22・23地点	調査担当 坪根伸也	調査面積 1,200m <sup>2</sup>	調査期間 9308・94.02~94.05	地域 A
--------------------------	--------------	-----------------------------	--------------------------	---------

本地点は、区画街路築造の事前調査として実施したH区s-19~23地点（平成元年度調査）に隣接し、当時検出された弥生時代後半～古墳時代前期にわたる集落跡の延長の存在が当初より予見されていた地域に相当する。

調査の結果、竪穴住居跡・土坑・壺棺墓・溝状遺構・柱穴などを確認した。

### 1 住居跡 (SH)

検出した住居跡 (SH) の総数は27基にのぼり、そのうち19基について掘り下げを実施した。

住居跡には隅丸方形・方形の平面プランをもつものがある。いずれも遺存状況がきわめて良好であり、30cm以上の壁高を有するものがほとんどである。大部分が4本の主柱を有し、大半のものの南寄りの主柱穴間には楕円形を呈する土坑を付設している。壁溝の有無には両者が認められ、これが住居の存続機能期間に関連するものなのか、あるいは築成当初から選択的に壁溝の有無を決定していたのかについては、今回の調査によって明らかにすることはできなかった。ちなみに壁溝をもつ住居ともたない住居との床面レベルの有意な相関は認められない。

検出住居跡の時間的な存続幅は、弥生時代後期後半～古墳時代初頭に求められる。

### 2 溝状遺構 (SD)

今回の調査において、3条の溝状遺構を検出した。

1号溝 (SD001) は調査区内を南北に縦走する溝状遺構である。出土遺物から近世の所産（18世紀前半以降）と推定される。

2号溝 (SD002) は調査区の北西部において検出された溝状遺構であるが、検出状況から1号溝に接続する可能性が高いと考えられる。具体的に時期を特定できる遺物の出土は認められない。

3号溝 (SD003) は調査区のほぼ中央において1号溝と分岐する溝状遺構である。1号溝と切合関係を有し、1号溝に先行するものであることが判明している。厳密な所産時期の確定は資料整理完了を待たねばならないが、調査時の所見では備前産のすり鉢片や瓦質の甕形土器、土師器壺などが出土しており、その様相は中世末～近世の初頭段階の所産となる可能性も考えられる。

### 3 土坑 (SK)

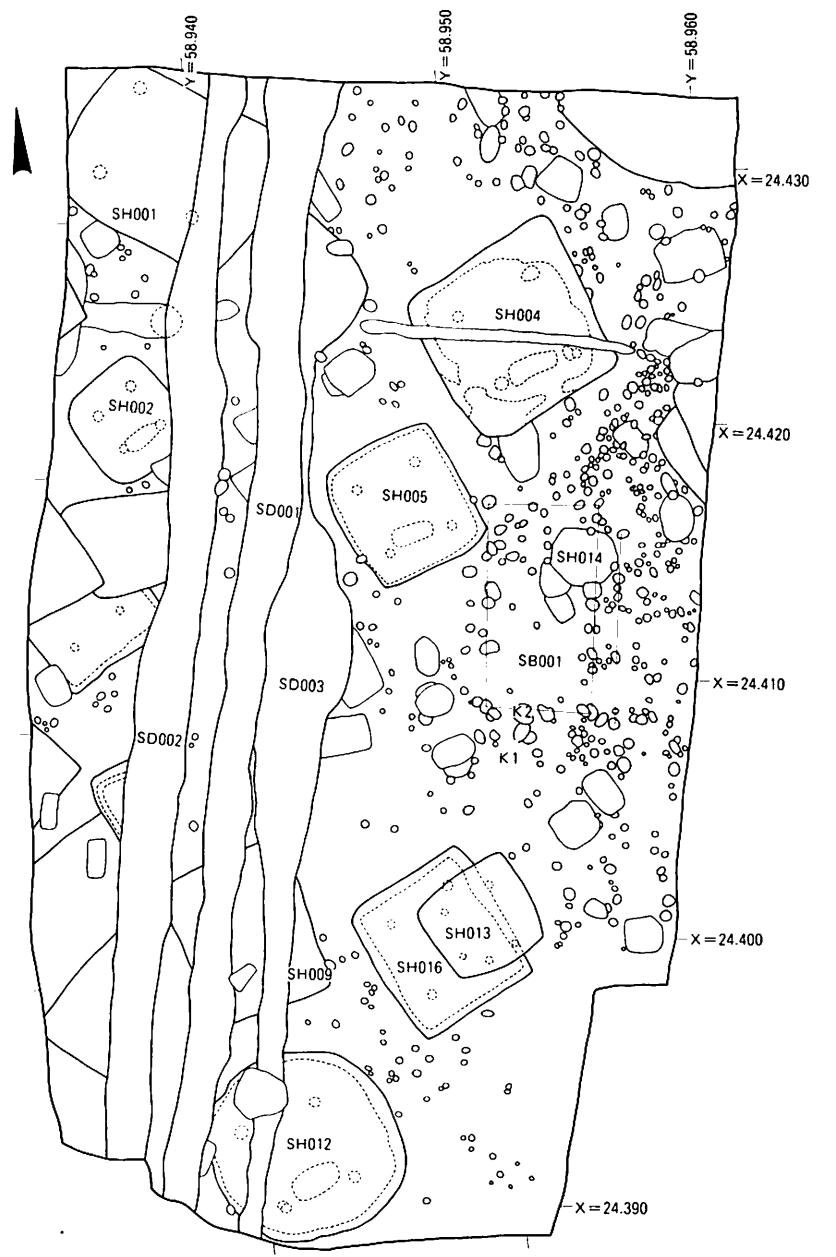
調査区全域にわたり大小さまざまな土坑の存在を確認している。弥生時代後期後半～古墳時代初頭のものが主体となるが、弥生時代中期・古墳時代前期の所産になるものも若干量認められる。

#### 4 壺棺墓 (K)

調査区のほぼ中央において2基を確認した。両者は切り合っており、時期差を有するものである。弥生時代後期後半～終末時期の所産となるものであり、両者とも壺形土器の頸部上部を打ち欠き楕円形を呈する土壙に埋置する。

#### 5 掘立柱建物跡 (SB)

調査区のほぼ中央部分において検出した。4間×2間の規模を有し、柱穴内から中国染付片の出土があり、これをもって所産時期の推定をおこなった。おおよそ15世紀後半～16世紀前半のものと推定される。(坪根 伸也)



第5図 遺構配置図 (1/300)

3 下郡遺跡群 I区p-11地点	調査担当 坪根伸也	調査面積 70m <sup>2</sup>	調査期間 93.10~93.12	地域 A
---------------------	--------------	--------------------------	---------------------	---------

調査地点は区画整理対象地区のほぼ中央に位置し、弥生時代の溝状遺構の存在が判明した第17次調査地点とJR豊肥線を挟んだ対面に相当する。また、平成5年5月に実施した第37次調査Aトレンチに接しており、調査はこの時のデータを踏まえ行った。その結果、弧状に展開する溝状遺構を約12mにわたり検出し、第24次調査で判明している溝の延長部として新たな資料を追加することができた。

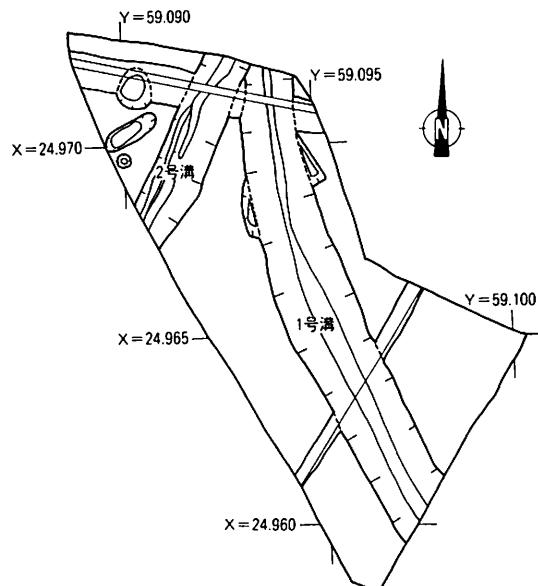
調査の結果、2本の溝状遺構と土坑2基、柱穴1を検出した。1号溝(SD001)は従来から存在の判明していた弥生時代後期の環濠の一部である。溝断面はV字形をなし、検出面からの深さは約1.1mを測る。埋土は大きく4つの土層からなる。すなわち、上部層から①淡茶褐色土層、②淡茶褐色砂質土層、③黄茶褐色土層、④黄茶褐色土+黄褐色土の4層である。このうち、②・③層におびただしい土器の堆積がみられ、原形を保ったままのものも数多く存在する。いずれの土器もおおよそ弥生時代後期後葉に比定されるもので、これまでの所見を追認する結果を得ている。最終的に採集した土器量はコンテナ25箱に達した。

この溝状遺構が環濠として展開するとした場合の環濠内集落の推定範囲は、今回の溝データを考慮すると、少なくとも直径65mの環濠に囲まれた約3000m<sup>2</sup>におよぶと考えられる。正確な範囲確認のための北側部分の調査が今後の課題となろう。

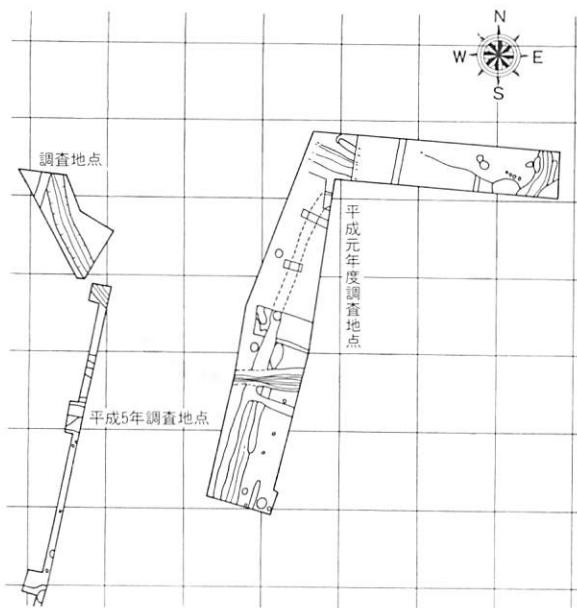
環濠内側の遺構の状況は調査面積の制約から具体的な把握は行えなかったが、溝状遺構の遺存状況等からの判断では第24次調査の所見と同様に後世の削平のため滅失している可能性が高いのではないかと考えられる。

また、1号溝の西側に新たに発見された2号溝は深さ約0.25mと浅く、出土遺物も少ない。切り合い関係から1号溝に後出すものであることは明らかであり、1号溝埋没後に築造されたことが確認されている。出土遺物が小破片のみであるため具体的に時期の特定は困難であるが、おおよそ弥生時代後期終末の所産であろうと推定される。

(坪根伸也)



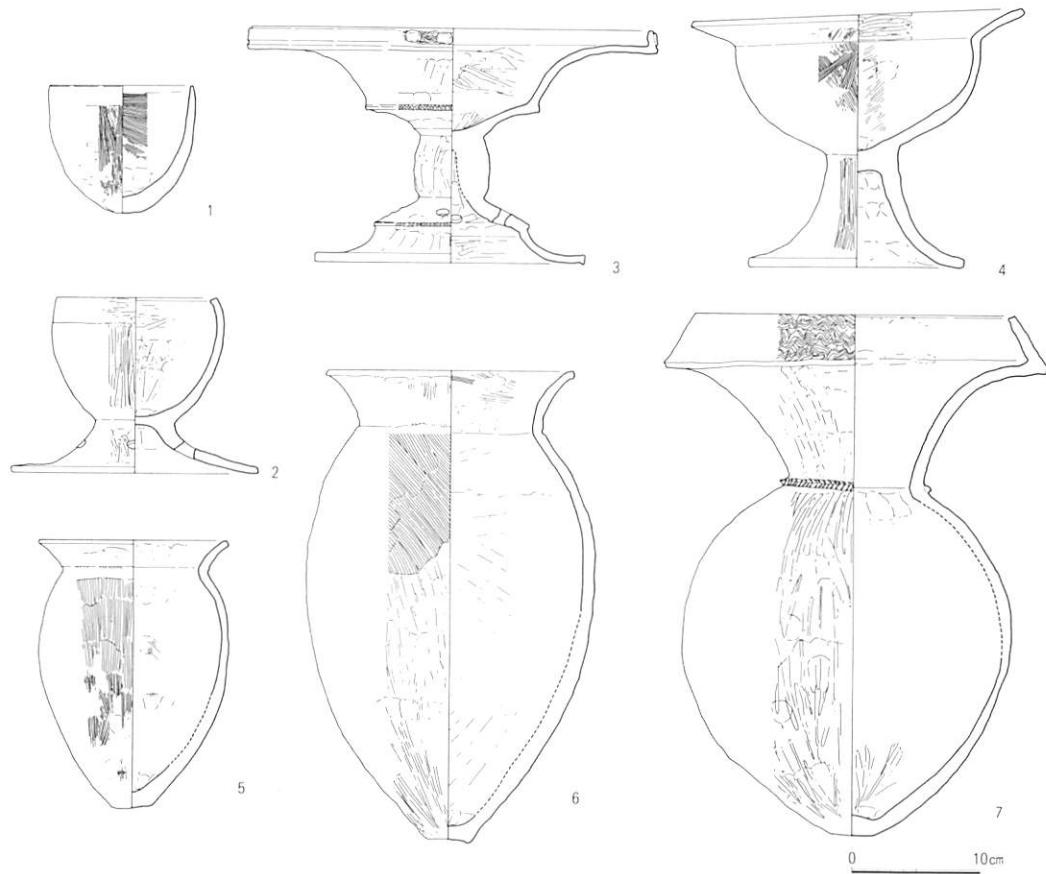
第6図 遺構配置図 (1/200)



第7図 調査地点位置図 (1/5000)



第8図 1号溝完掘状況



第9図 出土遺物実測図 (1/6)

4 下郡遺跡群 B区c-12・13地点	調査担当 坪根伸也	調査面積 310m <sup>2</sup>	調査期間 93.12	地域 A
------------------------	--------------	---------------------------	---------------	---------

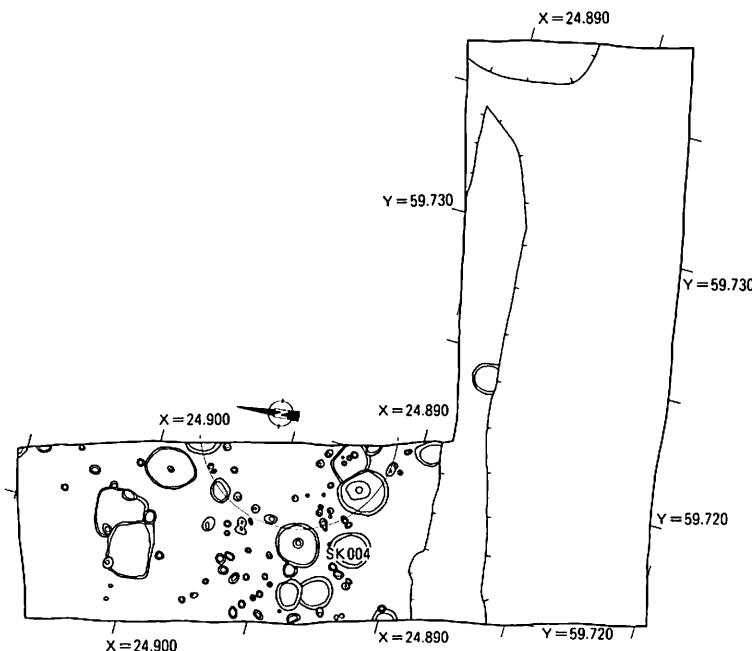
今回の調査地点は、下郡遺跡群の東端にあたり、既往の調査によって弥生時代前期～中期の集落の存在が確認されていたエリアに相当する。

調査は発掘可能な部分について重機により表土を除去し、遺構検出後、人力により掘り下げを実施した。

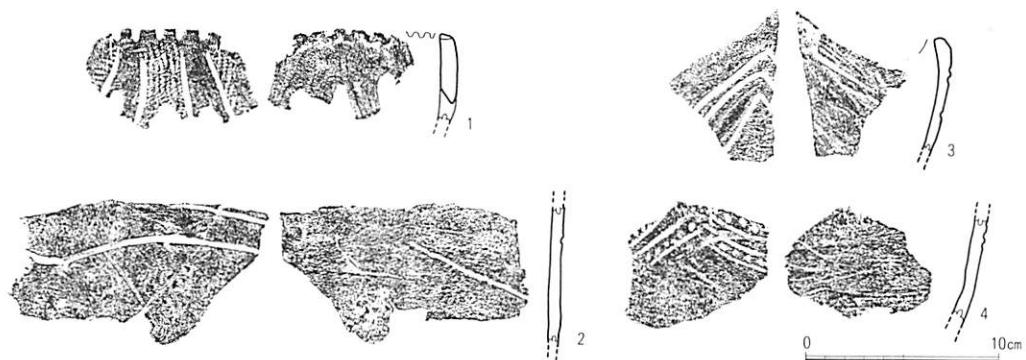
調査の結果、調査区の北側部分において弥生時代前期末～中期の所産となる貯蔵穴群、柱穴等を検出した。南側部分は水田耕作に伴うと考えられる近世以降の溝状遺構が構築されており、このため該期の遺構は消失し、確認することはできなかった。

弥生時代の所産となる貯蔵穴は上部を削平され基底部しか遺存しておらず、必ずしも良好な状態とはいえない。検出プランには円形を呈するものと長方形を呈するものの2者が認められ、さらにそれぞれの床面中央に柱穴を有するものと有しないタイプがあることから、都合4種の形態が存在することになる。

これらの貯蔵穴のいくつかには底面直上に土器を内包するものがあり、帰属年代を推定する手掛かりとなる。調査区の中央付近で検出したSK004には遺存率の極めて高い下城式壺形土器とともに多量の炭化材が認められた。SK004は円形を呈し床面中央に浅い柱穴を有するものである。出土遺物の量は概して少ないが、完形に復元の可能な下城式壺形土器2個体を内包していた他、壺形土器破片などが出土している。壺型土器は底部から口縁部にかけて直線的に展開



第10図 全体遺構配置図 (1/300)



第11図 縄文土器実測図 (1/4)

するタイプであり、同種の甕形土器においても比較的新相を示すものである。壺は二叉状工具により重弧文等を施文するタイプのものであり、ほぼ中期前葉の範疇で考えられるものである。いずれも床面およびその周辺から出土している。

上記の他、弥生時代前期に比定される削り出し突帯を有する壺形土器などが他の遺構から出土した。また、これらの遺物に混じり縄文時代後期初頭に比定される中津式・コウゴー松式等の破片も認められ、周辺に該期の遺構の存在を示唆している。

今回の調査によって、弥生時代集落の範囲把握に新たなデータを追加することができた。また本地点周辺で頻出する縄文遺物の帰属遺構の探索が今後のひとつの課題となろう。

(坪根 伸也)



第12図 貯蔵穴炭化物出土状況



第13図 調査状況

発掘調査  
下郡遺跡群  
B区c-12・13

## 参考文献

- 「下郡遺跡群」大分市下郡地区土地土地区画整理事業に伴う発掘調査概報 (1) 大分市教育委員会 1990
- 「下郡遺跡群」大分市下郡地区土地土地区画整理事業に伴う発掘調査概報 (2) 大分市教育委員会 1991
- 「下郡遺跡群」大分市下郡地区土地土地区画整理事業に伴う発掘調査概報 (3) 大分市教育委員会 1992

5 下郡遺跡群 H区20-21地点	調査担当 坪根伸也	調査面積 589m <sup>2</sup>	調査期間 94.02.02 ~ 94.02.23	地域 A
----------------------	--------------	---------------------------	-----------------------------	---------

調査区は大分市大字下郡字柳ヤシキに所在する。

街路築造工事に伴う事前調査として589m<sup>2</sup>を対象として発掘調査を実施した。

遺跡地は水田耕作と宅地造成によって、大きく削平を受けており、遺構の遺存状態は良くなかった。

検出した遺構には、井戸跡4基、溝状遺構1条、土坑、柱穴等がある。

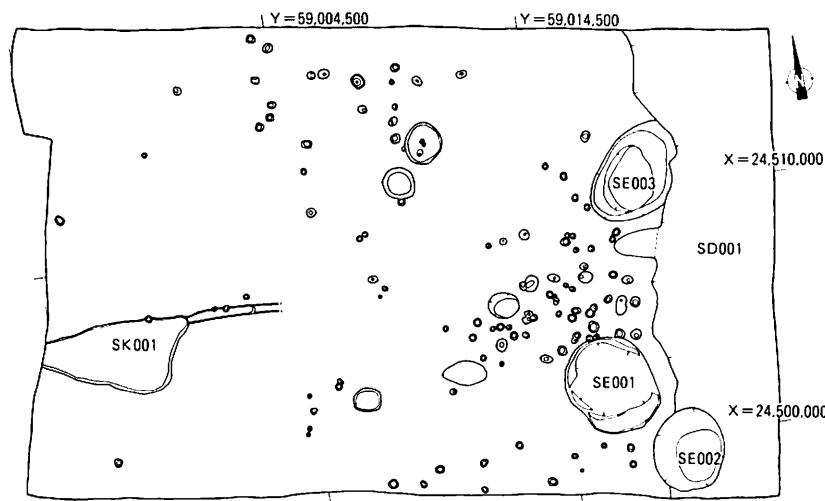
井戸跡は中世～近世のもの3基、古代のもの1基を検出した。なかでも10世紀代の所産と考えられる1号井戸跡(SE001)は水溜部にくすのきと思われる半截した丸太くり抜き材を埋置するタイプのもので、埋土中に綠釉陶器片、土師器、内黒土師器、瓦片などを内包する。古代に関してみると、下郡遺跡群での既往の調査では8～9世紀前半代の遺構・遺物が主として検出されており、明確に10世紀代と認識できる遺構の発見は本例が初例である。

また、大分市域全体に目を転じても当該期の資料の報告例は守岡遺跡の資料が知られるのみであり、貴重な資料といえよう。

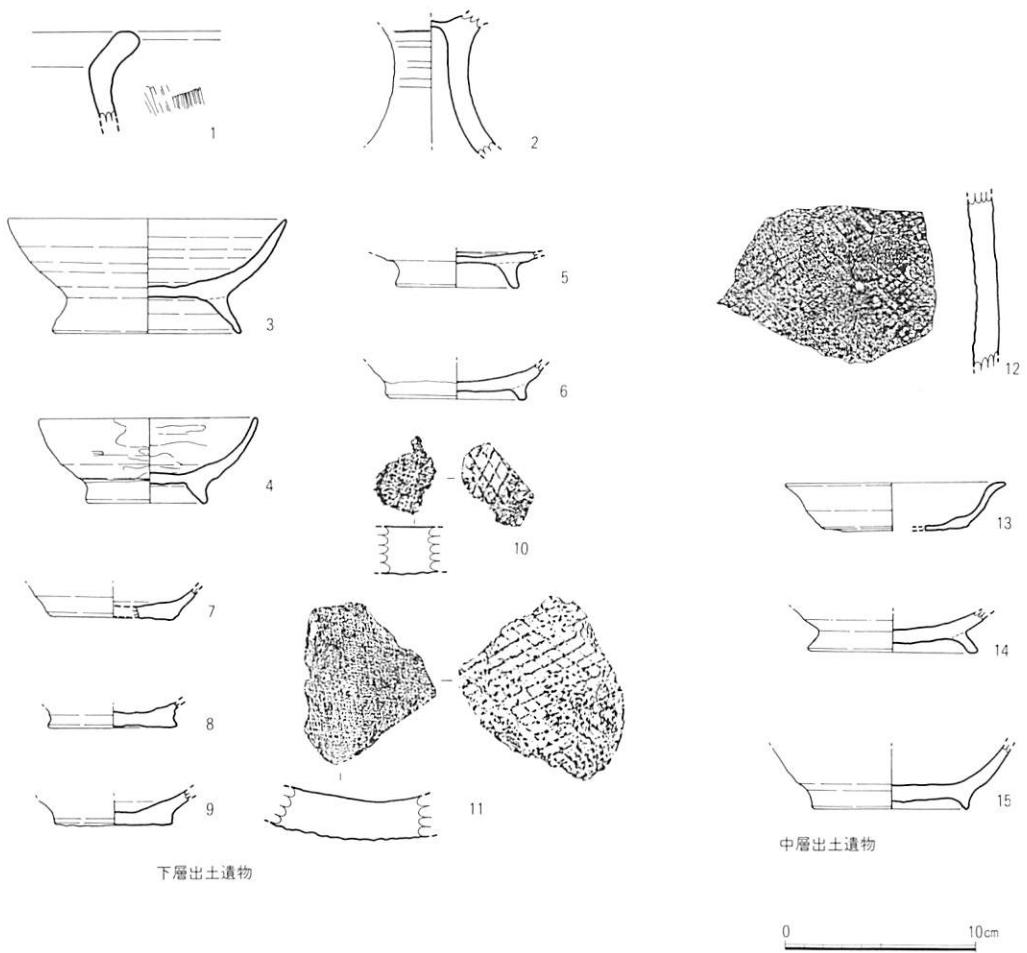
柱穴は後世の削平のためか遺存状況が極めて悪い。このような状況は調査区西側において特に顕著であり、このことから元地形は西側部分が高く、東側に傾斜していたものと考えられよう。

溝状遺構(SD001)は部分的な調査しか実施しておらず、詳細は不明であるが、近世に比定される井戸跡(SE002)との切り合い関係などから溝の所産時期を近世の時期幅の中で考えて大過ないであろう。

他に調査区の西端において不定形の土坑1基(SK001)を確認した。内黒土師器片などを若干量内包するものの、遺構の帰属年代を示すと思われる遺物には白磁口縁部やてづくね整形に



第14図 全体遺構配置図 (1/300)



第15図 1号井戸跡 (SE001) 出土遺物 (1/4)

による土師器坏などがあり、16世紀中頃以降の所産になるものと考えられる。

調査区の東側を南北に縦走する溝状遺構中からも破片ながら初期唐津と思われる高台部破片が出土しており周辺地域に当該時期の遺構が存在する可能性を示唆している。

出土遺物には前述したものの他、溝状遺構(SD001)中から縄文時代後期の西平式土器の口縁部破片や同晩期前半に比定される黒色磨研土器の破片、粗製深鉢形土器の破片数点が出土している。

調査の最終段階において、一部に整地層様の土層が認められたため、調査区全域にトレントを設定し、下部遺構の探索を行った。その結果、下部遺構の存在は確認されず、また整地層の存在を確証づける物証を得ることはできなかった。  
(坪根 伸也)

6 横尾遺跡群 B-2, S地点	調査担当 池邊千太郎	調査面積 400m <sup>2</sup>	調査期間 93.09～93.10	地域 D
---------------------	---------------	---------------------------	---------------------	---------

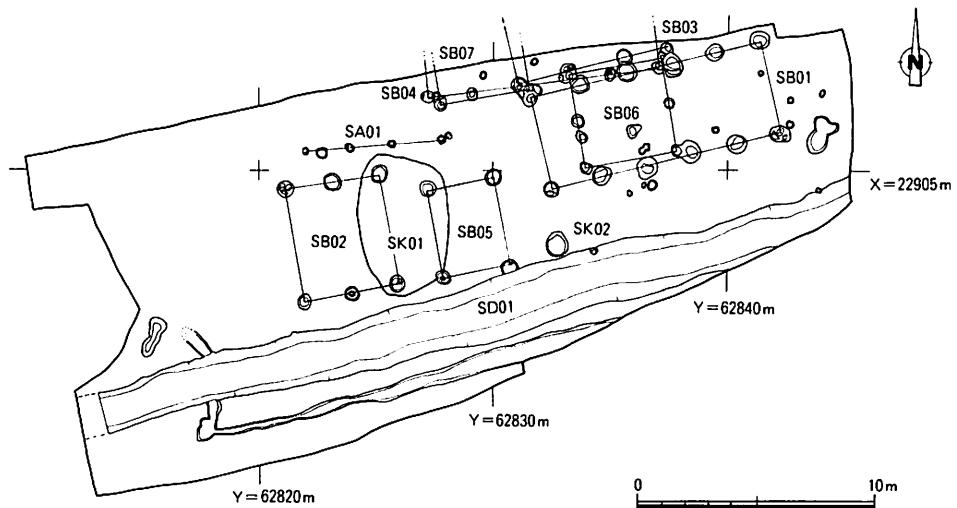
本地点の調査は、横尾区画整理事業B-2地点の区画街路南北線と東西線とが接続した場所に位置する。この地点より南側のB-6・7地点は、平成4年度に調査を行った際、平安時代の土坑や幅2.5mの近世の溝等が検出している。

調査の結果、中世から近世にかけての遺構を確認した。遺構には掘立柱建物跡(SB)が7棟、溝状遺構(SD)が2条、柵列跡(SA)が1条、集石を伴う土坑(SK)が1基、円形の土坑が1基、柱穴等が見られた。このため、B-6・7地点の遺跡と関連する遺構は顕著に見られなかった。

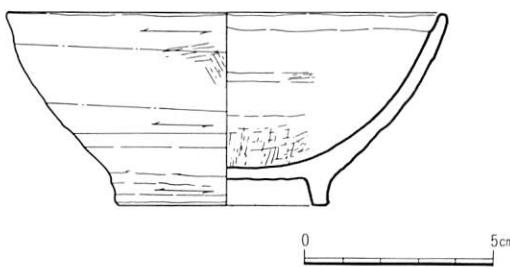
遺構としては、土坑、掘立柱建物跡や柵列跡と、これにともなう溝が見られる。このうち1号土坑(SK01)は隅丸長方形を呈し、規模は長軸を南北方向に6m、短軸を東西方向に3.8mである。床面は皿状に窪み、中央部で0.2mの深さを有する。遺構内には人頭大の河原石が100個程度散乱した状態で見られ、これに混じって磁器・土錘・土師質土器片が出土している。

7棟の掘立柱建物跡は僅かな遺物しか出土していないが、1号掘立柱建物跡から青磁や明の染付碗・土師質土器碗が出土しており、およそ15世紀代を中心とする時期が考えられる。こうした掘立柱建物跡はお互いに柱穴が切り合っていたり、建物配置の方位が異なっていたり、1間の寸法が異なっており、それらを分類すると3時期に分けられる。

I期目は1号土坑(SK01)を切って作られた2号掘立柱建物跡・5号掘立柱建物跡とその東側に位置する6号掘立柱建物跡・7号掘立柱建物跡である。6号・7号掘立柱建物跡は調査区外に延びており、規模は不明である。2号掘立柱建物跡は2間×1間、5号掘立柱建物跡は1間×1間であり、共に方形に近い建物であることから、住居ではなく倉庫であったと考えられる。



第16図 B-2.S地点遺構配置図 (1/300)



第17図 SK02出土遺物実測図(1/2)



第18図 SK02完掘状況

II期にはI期に建てられた5号掘立柱建物跡を切って1号溝(SD01)が東西方向に掘削されると共に、これに併設して1号掘立柱建物跡と3号掘立柱建物跡が建てられている。1号溝(SD01)は幅2~2.4m、深さは西で0.2m、東で0.42mである。流水方向は西から東側となり、100m先の谷間へと流れ込むと思われる。遺物には備前産のすり鉢や甕、古瀬戸の碗片、白磁の碗片、瓦質土器の火鉢、明の赤絵染付皿等が出土しており、15世紀代の範疇におさまる。

1号掘立柱建物跡の規模は5間×1間である。柱穴の掘り方から15世紀代の遺物が出土している。3号掘立柱建物跡は調査区外に延びているため、桁行を東西方向に3間まで確認することができなかった。いずれにせよ、この時期の建物は方形にはならず長方形を成している。

III期は3号掘立柱建物跡を切って作られた4号掘立柱建物跡と1号柵列である。4号掘立柱建物跡は桁行が東西方向に5間であり、梁行は調査区外に延びるため不明である。

また、特異な遺構としては2号土坑(SK02)がこれにあたる。建物配置を避けた場所に遺構が位置しており、長径1.1m、短径0.88m、深さ0.34mの不整形の円形を成す土坑である。土坑内からは、土師質土器碗の完形品が床面からやや浮いて伏せた状態で1点出土している。遺構の性格としては、周りに見られる建物に伴う祭祀の跡、もしくは土坑墓ということが考えられる。

この15世紀代の遺構と関連する事象としては、現在、この近くの法雲寺という寺が、1455年に奈良県からこの地に移って創建した記録がある。今回、検出されたこれらの遺構は、時期的に符合しており、遺物に輸入陶磁器を含むなど一般集落で消費されるものとしてはやや異なっていることから、寺やその周辺に形成された門前町の遺構の一部の可能性がある。今後の調査は、さらに建物群の配置・規模・用途や区画など周辺を含めて調査をおこない当時の様相を明らかにしていかなければならないであろう。調査区は、西よりB-4地点(調査面積300m<sup>2</sup>)、B-5地点(調査面積450m<sup>2</sup>)、B-6地点(調査面積616m<sup>2</sup>)である。

(池邊千太郎)

発 調 査  
横尾遺跡群  
B-2s 地点



第19図 B-2,S地点全景

7 横尾遺跡群 B-4・5・6地点	調査担当 池邊千太郎	調査面積 1,366m <sup>2</sup>	調査期間 93.12～94.03	地域 D
----------------------	---------------	-----------------------------	---------------------	---------

#### [B-4 地点]

B-4 地点は、調査区の西側に位置する。遺構には、土坑(SK)が20基、南北方向に走る幅0.4mの溝が1条、柱穴等が見られた。

土坑は大きな掘り込みが多く、この内、遺物が出土したものに、10号土坑(SK10)と15号土坑(SK15)が見られる。10号土坑(SK10)は長さ4mを越え、調査区外に延びている。土坑内より土師器壺が出土している。15号土坑(SK15)は、長軸1.9m×短軸1.2mの規模をもち、平面形態が楕円形を呈し、土坑内より土師器壺が出土している。これらの土坑から出土した遺物は、平安時代後半(11世紀後半頃)のものと考えられる。遺構の性格は、遺構検出面から15cm下の粘土層まで掘り込みが達し、掘った後ただちに地山が埋められていることから、粘土採掘によるものと考えられる。

#### [B-5 地点]

B-5 地点は、土坑10基、掘立柱建物跡8棟、溝3条を確認した。

土坑は、調査区の西よりに10基見られ、直径1.5～2m程の規模を行している。掘り込みの深さは、粘土層まで達していることから、B-4 地点と同じく粘土採掘のために掘削したものと考えられる。

東側には数期に渡って建て替えた掘立柱建物跡が8棟見られる。

建物規模は2間×1間が3棟で、建物面積は6.8～13.9m<sup>2</sup>であり、3間×1間が5棟で、建物面積は16.3～24m<sup>2</sup>である。時期は、柱穴の掘り方から年代を示唆できる遺物が出土しておらず、判断することはできないが、建物群と溝とが平行して配置されていることから、溝の時期である中世を考えたい。建物の形態は長方形のものと方形とに分類できるが、方形のものは倉庫として使用されたものと考えられる。

そして建物と平行して北側に3条の溝が東西方向に延びている。一番北側の1号溝(SD01)は、幅が最も大きく、埋土中から備前産の摺鉢が出土しており、室町時代に相当することが考えられる。1号溝と3号溝に挟まれた2号溝(SD02)は、陶器の甕・磁器小碗・磁器从飯器などが見られ江戸時代中期に相当する。最も南側に位置する3号溝(SD03)は、幅が狭く浅い掘り込みの遺構であり、磁器小壺2点・磁器碗など江戸時代後期の遺物が出土している。これら3条の溝は、1号溝→2号溝→3号溝の順に掘り直しが行われており、継続的に長く使用されたことが窺える。現在はこの部分が水田の畦と小さい水路になっており、中世には今のような土地の地割が形成されていたことが分かる。[B-6 地点]

B-6 地点は、調査区の南東寄りに50ヶ所あまりの土坑(SK)が集中し、中央から北側にかけて掘立柱建物跡(SB)が12棟、柵列跡(SA)が8ヶ所で見られる。調査区の東には16世紀代に相当する2条の細い溝(SD01・02)が南北方向に走っている。これ以外に18～19世紀代の土師

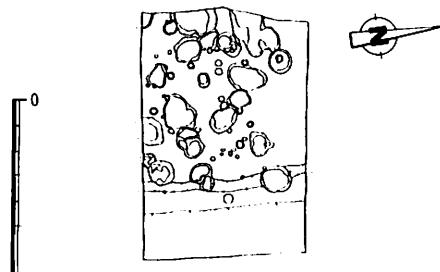
質土器の壊・小皿を伴う桶を使用した墓(早桶)が2ヶ所で確認された。また、隅丸方形に掘り込まれた土壙が検出され、床面に木質の痕跡が見られたことから木棺墓の可能性がある。

調査区の北東よりには、南北に長さ5mに渡って人頭大の石が集中する遺構が見られ、これに混じって15世紀代の遺物が出上している。墓が周辺に点在することから、この石が集中した遺構の性格を考えると火葬場の施設との可能性もあり、今後の調査例によって検討していきたい。

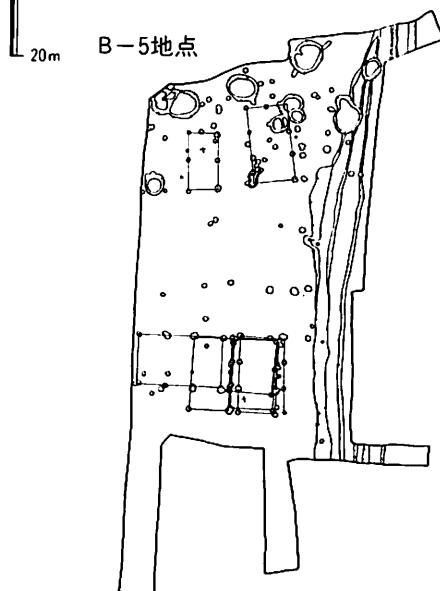
以上のように、まず、9世紀代に調査区の東側を中心に粘土の採掘を行っており、その範囲はさらに東側の平成4年度に行ったB-6・7地点まで広がっている。なお、調査区の南東よりには、平安時代前期の粘土採掘が広範囲に見られる。

B-5地点とB-6地点に検出した建物跡は、周囲の遺構より同安窯系青磁碗や龍泉窯系青磁碗や土師器の壊など12世紀代の遺物が見られる状況からこの時期の年代を現時点で想定できるであろう。

B-4地点

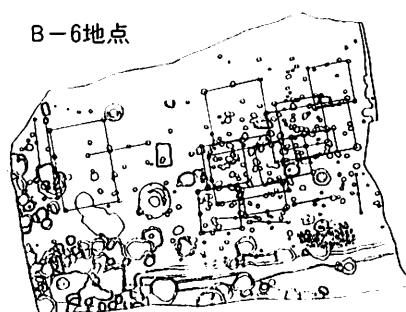


B-5地点



発掘調査  
実施延跡群  
B-4・5・6地点

B-6地点



第20図 B-4・5・6地点遺構配置図 (1/600)

8 横尾遺跡群 B-12・13	調査担当 池邊千太郎	調査面積 760m <sup>2</sup>	調査期間 93.05～93.07	地域 D
--------------------	---------------	---------------------------	---------------------	---------

この地点は区画整理事業による2号児童公園予定地に位置する。調査地点は大きくB-12、E地点、B-12・13地点、B-12、S地点の3ヶ所に分けることができる。B-12地点とB-16地点の境では遺構が確認されなかったため、調査地点をある程度絞ることができた。なお、この地点の北側に位置するB-9地点は、平成4年度に調査を行ったが、際立った遺構および遺物は確認されていない。

[ B-12, E 地点 ] (調査面積 280m<sup>2</sup>)

遺構には掘立柱建物跡(SB)が6棟、溝状遺構(SD)が1条、土坑および柱穴が多数検出している。

このうち掘立柱建物跡は、2間×1間が2棟、3間×1間が2棟、4間×2間が1棟である。

溝状遺構(SD04)は調査区の北側を東西方向に延び、遺物は近世の陶磁器が出土している。

柱穴からは、平安時代の土師器の壊と近世の磁器の皿が出土している。また、土坑からは石臼が出土している。

[ B-12・13地点 ] (調査面積 400m<sup>2</sup>)

遺構は、掘立柱建物跡(SB)が8棟、溝状遺構(SD)が3条、柵列跡(SA)が2条、土坑と柱穴が多数検出している。

このうち掘立柱建物跡は、2間×1間が4棟、3間×1間が1棟、4間×2間が1棟である。

遺物は、柱穴から平安時代(9世紀)の土師器壊、中世の糸引き底の土師器壊や備前産の擂鉢(16世紀)が出土している。

1号溝(SD01)からは10世紀代の内黒土器の壺、2号溝(SD02)からは瓦質土器火鉢や備前産の擂鉢など15世紀代の遺物が見られ、3号溝(SD03)からは伊万里産の染付小皿や鉄釉天目形碗、瓦質土師鉢など17世紀代を中心に出土している。

[ B-12, S 地点 ] (調査面積 80m<sup>2</sup>)

遺構は土坑(SK)が2基、柱穴、溝状遺構が検出している。

隅丸方形を呈する土坑からは石臼が出土している。

これら調査区の掘立柱建物跡群からは土器が出土していないが、各掘立柱建物跡の規模・1間の寸法・主軸方向・掘り方の形態・建物面積から4グループに大きく分類できる。

A グループ : S B01・02・04・07

B グループ : S B06・10・12

C グループ : S B09・11・14

D グループ : S B05・08・13



第21図 B-12・13地点遺構配置図 (1/300)

各グループの形成された年代であるが、なにぶん柱穴からは年代の決め手となる土器が出土していないため判断することはできないが、調査区の東南側に10世紀代と15世紀代と17世紀代の3条の溝状遺構があることや柱穴から9世紀代の土師器が出土していることからこの4時期が考えられよう。今後の調査により時期によって1間の寸法が変化するのであれば、それを基に各掘立柱建物跡の年代を想定することも可能であろう。

(池邊千太郎)

調査担当	調査面積	調査期間	地域
9 龜塚古墳 讃岐 和夫	652m <sup>2</sup>	93.07~93.12	G

亀塚古墳は、大分市街地より約12.2kmほど東部に位置する大分市大字里字大塚に所在する。古墳は丹生川河口の西岸、標高43mほどの丘陵上に占地される。本地点は丹生台地が三角形に展開する北東部隅にあたり、国東半島や遠く四国等を眺望することができる。

当古墳は保存整備と古墳周辺の史跡公園化を行い市民等に歴史学習の場の提供を図るための環境整備が計画されている。平成5年度は保存整備に必要な基礎データの収集と古墳の規模、周辺の状況把握を主たる目的として調査を実施した。

調査の結果、古墳周辺においては周濠等の遺構を確認することはできなかった。

古墳周囲の平坦面は後世の畑地やミカン畑の造成に際し一部に改変の痕跡が認められるものの、大部分は古墳の築造時にすでに形成されていたものである。

墳丘については、3段築造であり、各段には葺石と埴輪がみられ、平坦面上には玉砂利を敷いていた。葺石は大半が白色を呈する拳大の石英質の自然礫を使用しており海からの視覚効果は大きかったと思われる。

前方部前面は現代の共同墓地造成のため裾部と1段目的一部分を削平されて不明な点が多い。また、前方部西側コーナー付近の調査区で裾部の根石レベル33.60mを確認しており、これとともに古墳の主軸中心線を基点に折り返してみると約48mの幅を推定することができる。墳丘のくびれ部の東西幅は約27mを測り東側の基底根石レベル34.10m、西側レベル34.00mを示しほぼ水平であることを確認した。

今回新たに発見された遺構として西側くびれ部付近の前方部に付設された造り出しを指摘することができる。現状は西側半分が後世の土取り事業により大きく改変されているが、この遺構を遺存している部分から復元すると9.5m×8m、高さ0.7mほどを測る方墳状に造られていることがわかる。斜面部分には葺石が施され平坦面には円筒埴輪列を2列確認している。ここでみられる埴輪には円筒埴輪以外にも家形、楯形の形象埴輪の破片もみられた。

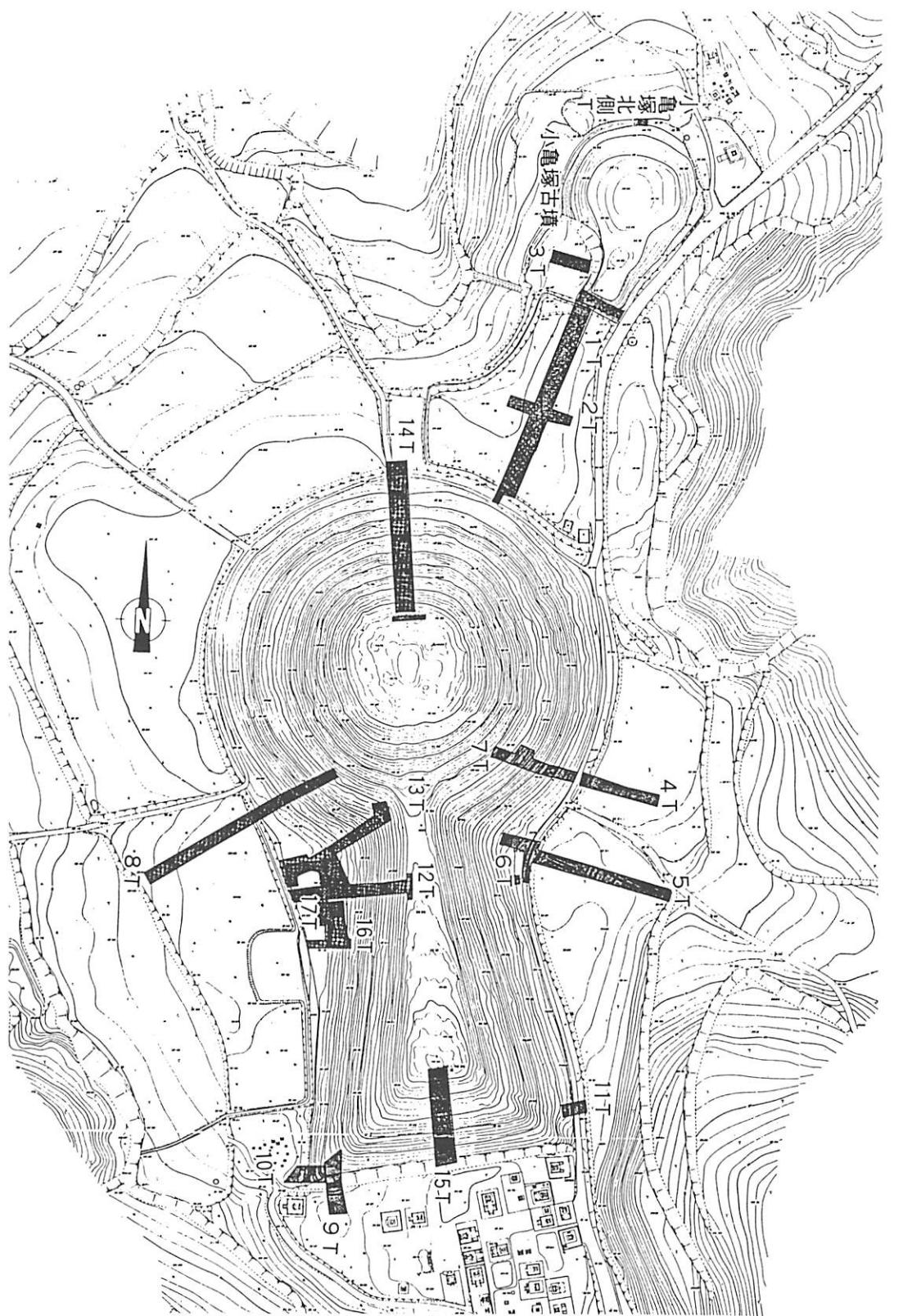
このようなくびれ部付近の前方部に造り出し部を付設するものは県内では初例である。

また、亀塚古墳の北側前方部約35m付近に小亀塚古墳が所在する。この古墳は全長35m以上の前方後円墳であることが今回の調査により判明した。ただ、後世の里道やミカン畑等による削平で形状がかわっている。現状では前方部は短く後円部は幅23m、高さ4mの2段築造であり葺石は施されていない。主体部はすでに盗掘の痕跡が認められる。

(讃岐 和夫)

## 参考文献

県指定史跡 亀塚古墳 保存整備事業 第1次発掘調査概報 1994 大分市教育委員会



第22図 龜塚古墳調査トレンチ配置図 (1/1000)

10 賀来中学校遺跡 (4次調査)	調査担当 池邊千太郎	調査面積 450m <sup>2</sup>	調査期間 93.07～93.08	地域 A
----------------------	---------------	---------------------------	---------------------	---------

遺跡は、大分川によって形成された河岸段丘上に広がり、標高15～20mにあたる。これまで、3次にわたる発掘調査によって弥生時代を中心とする環濠集落の存在や小児用の壺棺墓などの墓域の形成が明らかにされ、集落の変遷をたどることができた。

今回の調査は、賀来小学校の改築事業に伴うものであった。旧建物の基礎により、事業面積の半分は搅乱されており、最終的には調査面積は450m<sup>2</sup>となった。

調査の結果、溝状遺構5条、土坑20基、井戸跡2基、柱穴状遺構が多数検出された。出土した遺物の時期は、縄文時代後期、弥生時代後期～古墳時代初頭、奈良～平安時代前期、平安時代後期～鎌倉時代、桃山時代～江戸時代初頭である。なお、これまでの調査にみられるような弥生時代の環濠集落に関連した遺構は検出されなかった。

最も古い遺構は弥生時代終末～古墳時代初頭の時期にあたり、8号溝(SD08)・SX05がこれに該当する。

8号溝(SD08)は、幅0.8m、深さ0.15mの擂鉢状の断面を呈する小さな溝状遺構である。溝内より、古式土師器の甕・複合口縁の壺(茶臼山タイプの壺)・高壺・台付鉢等が出土している。

この時期は賀来1次調査の2号溝と住居跡がこれに当たり、今回の調査した8号溝と柱穴遺構(SX05)に相当する。8号溝は2号溝に見られる環濠の性格を持ったV字溝とは異なり、非常に規模の小さなものである。さらに、掘り方の形態が逆台形を示し、出土遺物に複合口縁の壺が出土していることから方形周溝墓と類似しているものの遺構の全体像を確認できなかったため遺構の性格は不明である。

この後、奈良～平安時代前期に形成された溝(SD01)と土坑が数基確認されている。

1号溝(SD01)は調査区の北側を東西方向に走っており、調査区外に延びている。規模は幅が7mを越え、床面で2.8mを有し、深さは検出面から1.1mである。掘り方は断面が逆台形となっており、上層の堆積状況から見ると、数回の掘り返しがみられる。出土遺物は、土師器の壺・蓋・皿・碗・短頸壺・高壺・甕・鍋、綠釉陶器が見られた。土器組成から見て、最終埋没年代は平安前期(9世紀前半)と考えられる。

さらに、平安時代後期～鎌倉時代前期の溝(SD02)と土坑を数基確認した。

2号溝(SD02)は東西に走る幅1.8mの溝状遺構で、白磁や同安窯系の青磁の碗が出土している他、移動式の窓が見られた。

最終的に桃山時代～江戸時代初期の溝(SD10)と井戸(SE01)が確認された。

10号溝(SD10)はSD01のほぼ内側に掘り込まれた幅1m程の溝である。遺構内には多数の河原石が混入し、これに混じって備前産の擂鉢・甕、明の染付碗が出土している。

以上、今回の調査によりこの地に断続的に遺跡が形成されてきた様子が窺える。従来調査された賀来中学校側で確認される弥生時代から古墳時代の集落およびそれを囲む溝は、その東の

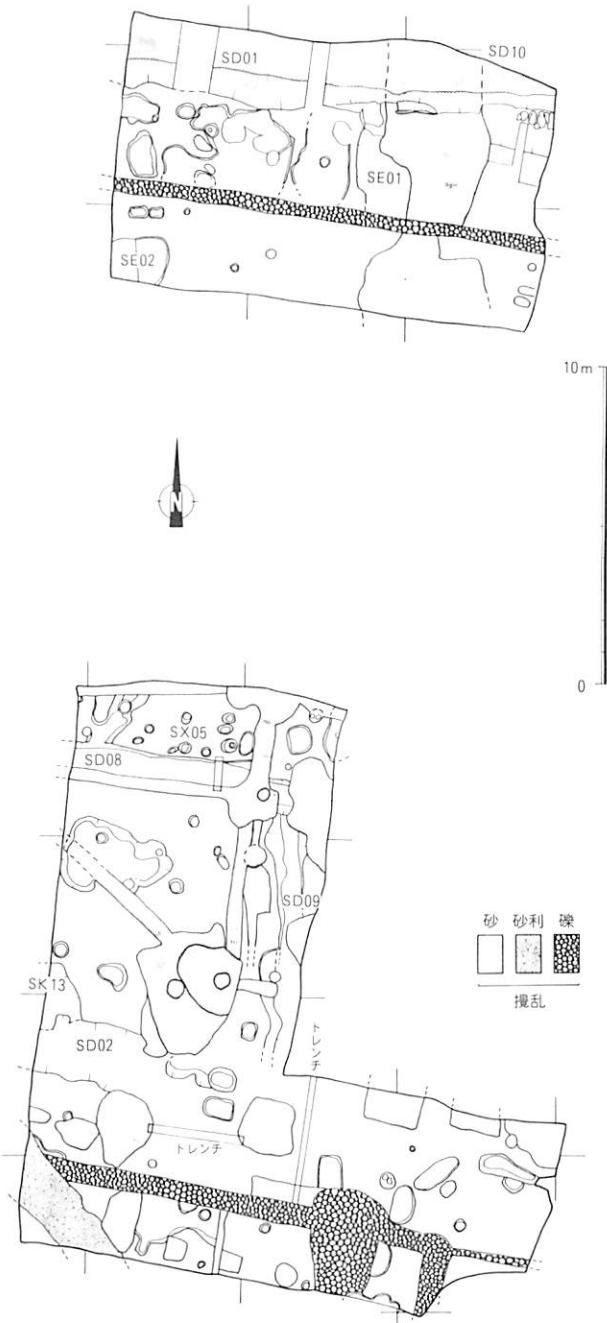
大分川寄りの賀来小学校の辺りまで範囲が及ばないようである。

今回、注目すべき遺構は8世紀後半から9世紀前半代の1号溝と土坑である。8世紀の中葉以降には既に国分には国分寺が建立しており、距離にして1kmの地点にある。さらに豊後国府の推定地である古国府まで距離にして4kmの位置にあり、国府と国分寺を結ぶルート上に位置している。この賀来遺跡の地が国府から国分寺につながる交通の要所としてとらえることができるのではないかと考えられる。出土遺物に一般集落の遺跡から出土しない越州窯系の青磁碗が見られることからそれが豊後国衙の高坂駅と速見郡の由布駅とをつなぐ官道(太宰府道)が賀来の条里の中を走っていたとすればこれに関連した遺跡であると思われる。したがって今回検出された1号溝や土坑はそうした施設に付随する遺構であると考えることができよう。

(池邊千太郎)



第23図 1号溝(西方向から)



第24図 遺構配置図 (1/250)

11 府内城・城下町遺跡 (旧若竹公園)	調査担当	調査面積	調査期間	地域
	塔 鼻 光 司	500 m <sup>2</sup>	93.07	A

府内城は大分市街中心部に位置し、北に別府湾を望む典型的な平城で、城主竹中重利の時府内城の修築と府内城下町建設に着手した。慶長七年中(1602)には、天守・櫓・武家屋敷が完成し、次に城下町の建設を行った。三の丸(侍町)の外側に東西10町、南北9町の範囲を約40の町に長方形に区画した町割りが行われ、中世の町から町屋や寺院を移した。当遺跡は三の丸を囲む中堀上に位置する。

中堀の幅は最大21間(42m)あり、今回の調査区は中堀のほぼ中心に位置し、上面は太平洋戦争の空襲による焼失跡が検出された。堀は近代まで利用されていたため上層には比較的新しい遺物が多く、江戸時代の遺物は下層の灰黒色泥炭層(堆積層)において検出された。

遺物は陶磁器類を中心として漆塗り椀・曲物・下駄等の木製品が確認されている。特に、磁器碗の中には焼接ぎを施した物が数点見られ、それらの中には名前や町名の書かれた物も含まれていた。

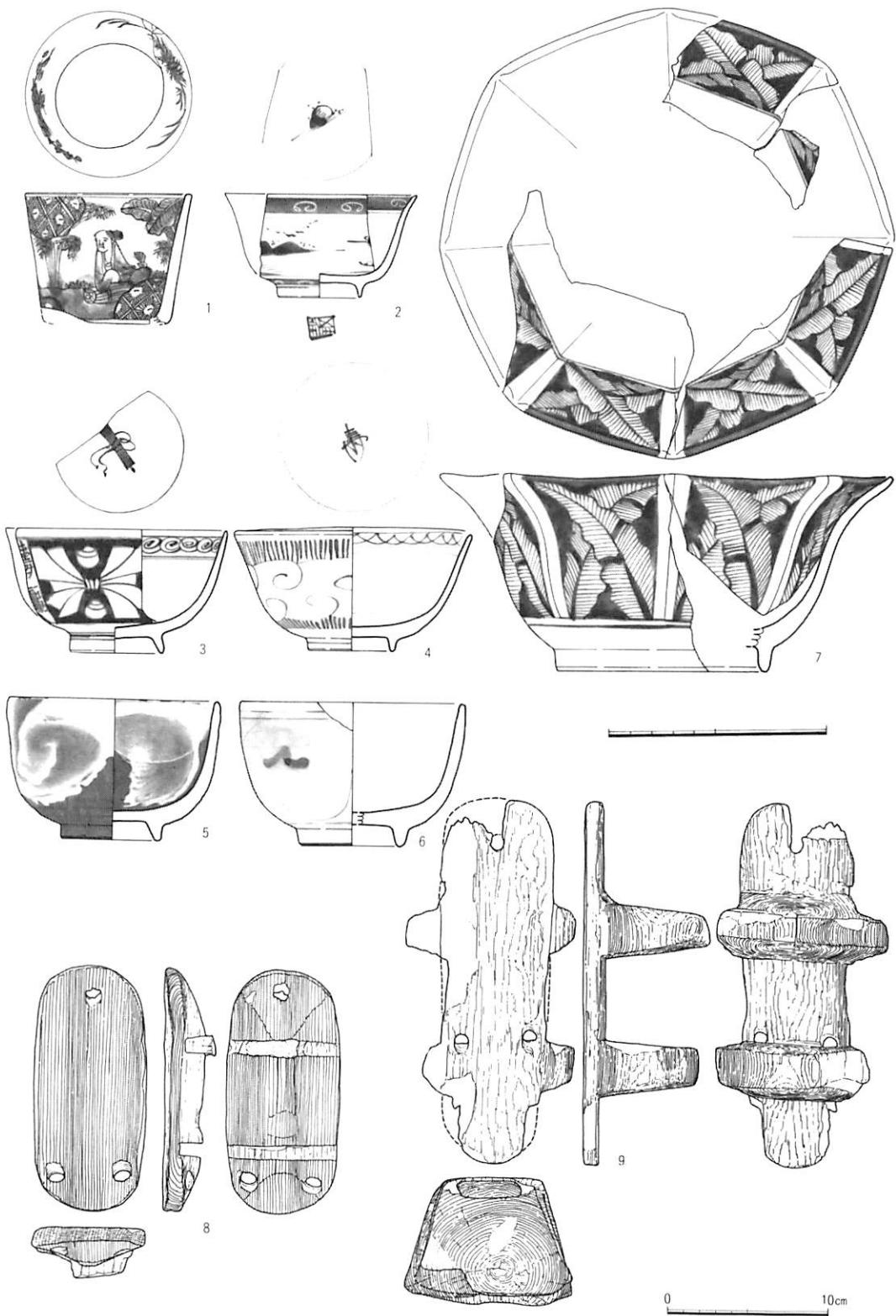
出土遺物の中には、当時の庶民の生活を窺い知ることの出来る物が数多く含まれている。また、近年大分市でも大分県共同庁舎建設に伴う調査や、大分合同新聞社社屋建設に伴う調査など近世遺跡に関心が集まっているが、市街地での調査は制約を受ける事が多く、今後の調査は十分な検討が必要であろう。  
(塔鼻 光司)



第25図 調査地点位置図 (1/5000)



第26図 調査区全景



第27図 出土遺物実測図 (1/3-1/4)

12 府内城・城下町遺跡 (大分合同新聞社屋建設予定地)	調査担当 黒崎・塔鼻邊 坪根・池邊	調査面積 600m <sup>2</sup>	調査期間 93.04~93.05	地域 A
---------------------------------	-------------------------	---------------------------	---------------------	---------

調査区は大分県教育委員会文化課が調査を実施した府内城三ノ丸遺跡の西側に位置する。調査対象地域の中央部分は、既存のビル基礎ならびに地下室構築に伴う搅乱のため、遺構はすでに欠失していた。この結果を受け、調査は図に示すように逆L字形をなす約600m<sup>2</sup>について行った。

遺跡は近来の搅乱穴により随所を分断され、遺構検出にあたり困難を極めたが、調査の結果、鎌倉時代(0期)・16世紀末~17世紀初頭(I期)・17世紀中頃~17世紀後半(II期)・18世紀前半(III期)・18世紀後半~19世紀初頭(IV期)・明治時代~現代(V期)の計6時期にわたる遺構・遺物を確認することができた。

検出遺構には溝状遺構・井戸跡・ゴミ捨て穴等があり、埋土内に遺物を内包する。

以下においては、現場時において認識した埋土内遺物の所産時期によって時期比定を行った各時期別の検出遺構の概要を略述する。なお、これらの所見はあくまで暫定的なものであり、厳密な時期比定は遺物の整理作業完了後に行われるべきものであり、これらの作業過程後に若干の変更・訂正の可能性のあることをお断りしておきたい。

#### 《0期-鎌倉時代》

おおよそ13世紀に比定される本時期は糸切り底を有する土師器壺・龍泉窯系青磁碗I~V類などの断片的な破片資料のみの確認であり、具体的な遺構は検出されていない。近隣にこの時期の遺構が存在する可能性がある。

#### 《I期-16世紀末~17世紀初頭》

SK027・SK023がこの時期の遺構と考えられる。

SK027は人頭大から径約50cm程度の礫を略長方形に集石したるものである。平面プランは2.8m×1.9mの規模を測り、検出面から底面まで約1.7mを測る。集石部から古唐津の陶器片・中国輸入染付片などが出土している。倉様の施設であろうか。

SK023は東西方向に長軸をもつ土坑である。用途等は不明であるが、埋土中から古唐津系の陶器片・完形の土師器壺などが出土した。

#### 《II期-17世紀後半》

SK018・026をこの時期の遺構と考えることができる。

SK018は長径1.2mを測る不正円形の土坑で、底面付近において土師器壺・櫛目文様を施す陶器片・肥前系陶磁器などが比較的まとまって出土した。ゴミ捨て穴と考えられる。SK026は東西方向に長軸をもつ、プラン長方形をなす土坑である。現存深度1.1mを測る。底面に近の大部分が主軸方位に規則性を有し、なんらかの規制のもとで構築されたことを示している。仮に資料整理完了後、前項の時期比定が妥当なものと判断されれば、SK027・SK023を擁するI期(16世紀末~17世紀初頭)の時期にすでにIV期まで引き継がれる地割りの規制の存在を間接する



接する土層中から漆塗り木椀・箸をはじめとする多彩な木製品が出土している。其伴している肥前系陶磁器片からほぼこの時期の所産とみて大過ないであろう。

以上その他に当該時期の所産になる可能性として、SX003をあげることができる。

SX003はほぼ東西方向に長軸をもつ長方形遺構で、4.2m×12mの規模を有する。底

面は東側にわずかに傾斜して深くなり、現存深度0.96mを測る。この最深部に泥炭質土層が堆積し、この中から魚骨等の自然遺物の他、竹簀・ゲタ・曲物などの木製品の出土も認められる。また、堆積土層は典型的な凸レンズ状堆積を示し、人為的に埋められたような状況は認められない。前述の泥炭土層上面から17世紀前半に比定される肥前陶磁皿が出土しているが、上層中より18世紀後半の所産となる肥前陶磁の出土が認められることから、本遺構の帰属年代をにわかに決めることはできない。しかしながら、現在確認されている下層出土遺物は総体的に古い様相を示していることから、上層遺物の出土状況の検討・下層遺物の完全把握などの作業プロセスが必要であり、厳密な時期比定には今すこしの時間を必要とする。したがって現時点では本遺構の時期をⅡ～Ⅳ期という幅の中で理解しておきたい。

#### 《Ⅲ期－18世紀前半》

この時期の所産となる遺構はSK029である。埋土内に当該時期に比定されるすり鉢片・土師器壺・肥前系陶磁器を内包している。北側をSK015により切られており、全体規模は不明であるが、現存深度0.35mを測る。

#### 《Ⅳ期－18世紀後半～19世紀初頭》

SX001・SX002がこの時期に相当する。

SX001は南北方向に長軸をとる長方形遺構である。11.8m×2.6m、現存深度0.6mを測る。埋土は黒色灰層と焼土層の互層により形成される。底面から肥前系陶磁器・土壁等に使用されたと思われる竹編材などが出土する他、埋土内に瓦を少量伴出する。

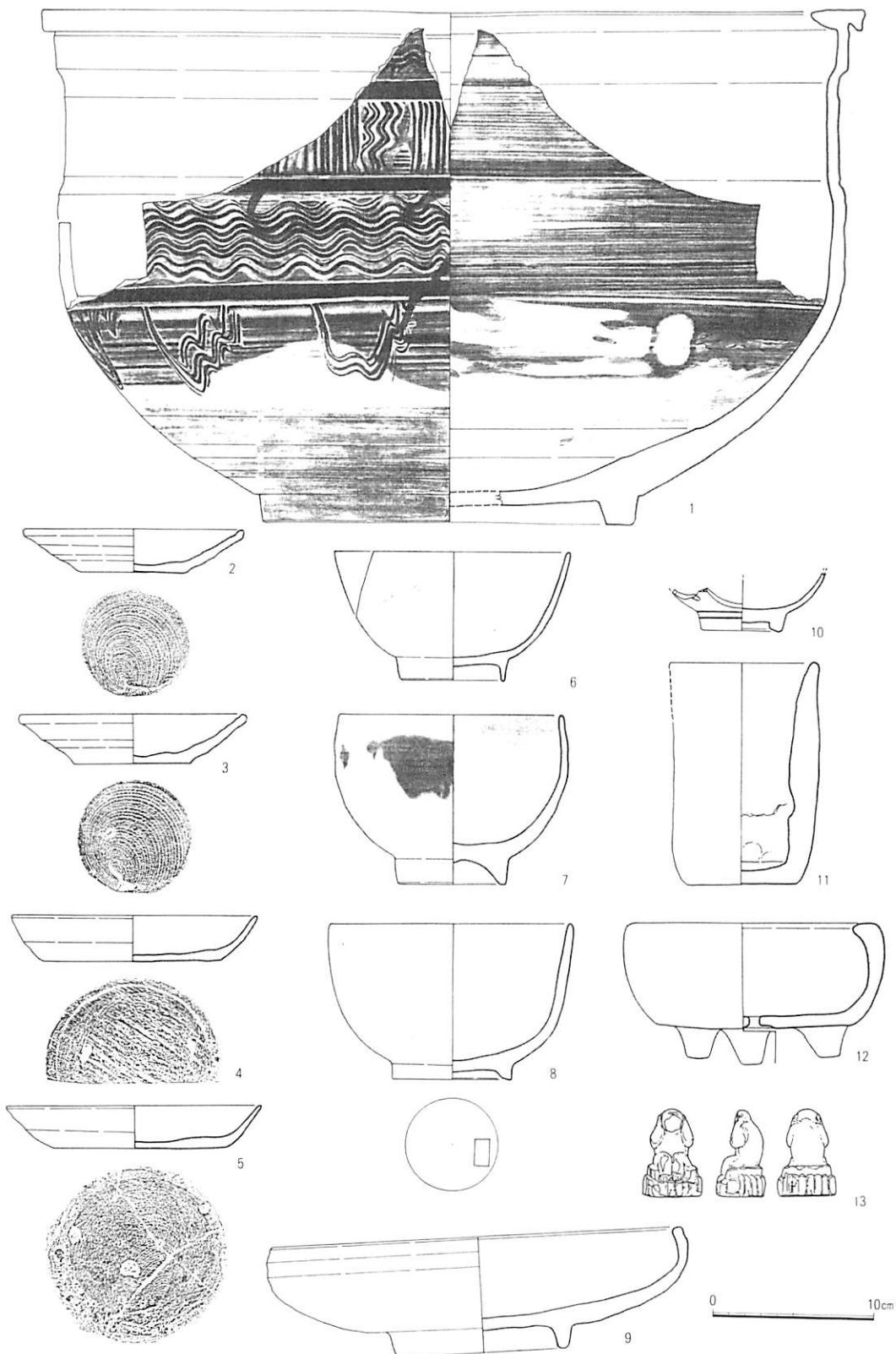
SX002はSX001の西側に位置し、SX001と切り合い関係を有する。切り合いによる先後関係はSX001に先行するものであるが、内包する遺物はSX001と大差なく、SX001に近接する時期の所産と判断される。

#### 《Ⅴ期－明治時代～現代》

調査区全面に確認できる。ゴミ捨て穴が主体であり、薬ビン・瓦片・コンクリート片などを多量に内包する。

本調査地点は江戸時代に屋敷地として使用されていた場所であり、今回検出された遺構のいくつかは屋敷地割りに関連するものと推定される。このことはSX007を除く、他の主要遺構の大部分が主軸方位に規則性を有し、なんらかの規制のもとで構築されたことを示している。仮に資料整理完了後、前項の時期比定が妥当なものと判断されれば、SK023・SK027を擁するⅠ期(16世紀末～17世紀初頭)の時期にすでにⅣ期まで引き継がれる地割りの規制の存在を間接的に予測することができる。このことは、近世府内城下成立時期の初期の段階すでに町割りの存在を窺いしることのできる資料として評価され、成立期の城下の様態解明に大きく資するものと期待されよう。また、最終的な歴史像復元には文献史学等とのタイアップを含めた総合的な検討が望まれる。

(塔鼻・坪根)



第30図 SK018出土遺物実測図(1/4)

13 猪野遺跡	調査担当	調査面積	調査期間	地域
	讃岐 和夫	600m <sup>2</sup>	93.05~93.06	D

猪野遺跡は大分市街中心部より約5.5km南東方向にある大野川の支流乙津川河口より約4km上った左岸の鶴崎丘陵上の位置する。大分市大字猪野字栗流に所在し標高40m前後を測る。

この周辺は新産業都市建設の進展に伴う急激な人口増加と都市化により宅地化が進んできており、多くの住宅団地等が造られている。

当遺跡も民間開発のマンション建設に伴う調査である。

調査区はマンション建物が建築される部分のみを対象としたため、東西方向に長いものになった。

遺構については弥生時代中期後半～後期初頭にかけての貯蔵穴と土壙墓および土器蓋土壙墓、柱穴群や中世の時期に掘られたと思われる溝状遺構、また、近世の溝状遺構等も検出している。

遺物については、全体的に出土量は少ないが、SK-1、3、4、6、8、12、19から図化の可能な下城式壺形土器、口縁部が若干鋤先状になる壺形土器などの弥生時代中期に比定される土器破片が出土している。

また、ここで注目されるのはSK-11の土器蓋土壙墓の蓋として使用された壺形土器である。この遺構について概略を記すと、土壙墓の規模は現状で直径50cm前後、深さ7cmほどの円形を呈している。その上部に壺形土器を半載したものを覆いかぶせたものである。規模から小児用に使用したものと推定される。この壺形土器を復元すると口径約16cm、胴部最大幅35cm、現存高40cm+ $\alpha$ を測る。口縁部は外反しながら若干内湾気味に立ち上がり、頸部に断面三角形の突帯2条、その下位に勾玉浮文が張り付けられている。浮文は2個単位であり、推定で5カ所に施されていたと思われる。胴部は球形に近く、断面三角形の突帯3条を胴部最大幅の上下2カ所に巡らせている。底部は欠失しており不明であるが、丸底気味の底部であろう。

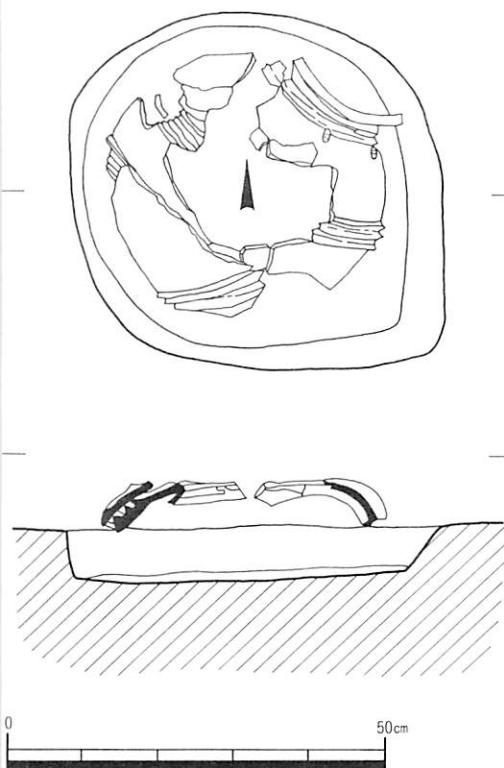
器面調整は、口縁部から頸部にかけて内外面共にヨコナデ、頸部内面には指頭痕が残る。胴部の外面は刷毛目を施し一部をナデ消している。突帯にはヨコナデが施され、胴部内面は全面ナデにより調整されている。胎土は石英粒子、長石粒子を含む。外面色調は黄色で一部に黒班が認められる。内面は暗茶褐色を呈し焼成は良好であった。この土器は、大分市内では検出例の乏しい時期のもので弥生時代後期初頭に編年される。

中世の溝状遺構は、調査範囲の制約から全体の把握はできないが、幅4m、現状の深さ1mを測り断面形状は逆台形を呈している。遺物は溝の底部より擂鉢、白磁、青磁、土師器破片が数点出土した。

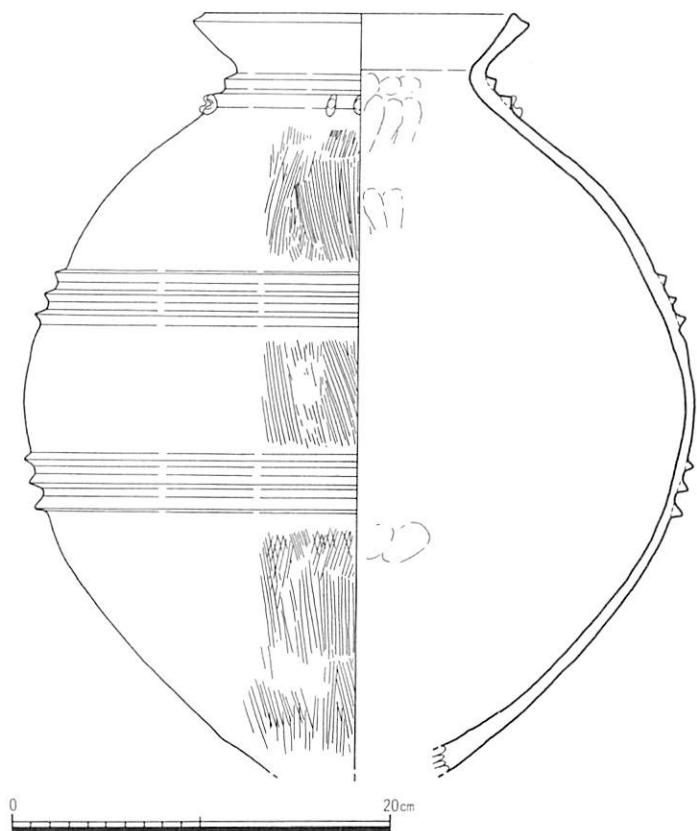
(讃岐 和夫)

#### 参考文献

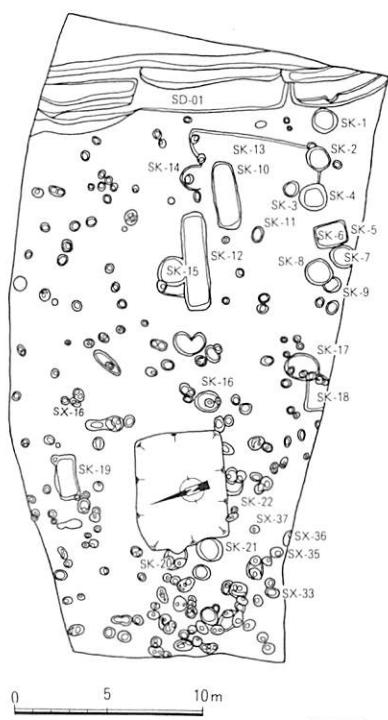
猪野遺跡・マンション建設に伴う発掘調査報告書 1994 大分市教育委員会



第31図 SK11平面・断面実測図(1/10)



第32図 SK11遺物実測図(1/4)



第33図 遺構配置図(1/400)



第34図 SK11検出状況(南西より)

14 敷戸城津留遺跡	調査担当	調査面積	調査期間	地域
	塔鼻・坪根	280m <sup>2</sup>	93.08	C

調査地は大分市大字鶴野字城津留1260番地1他にあたり、敷戸川の左岸、本宮山から北東に延びる丘陵上に位置する。

調査の結果、断面がV字形を呈し、東側に開口する谷状の落ち込みを確認した(SX01)。この谷状遺構は、検出面から0.8m～2.8mの深さを有し、現存する谷部に接続する。土層観察の結果、埋土はすべて東側に向けて堆積し、この地点が谷最深部にあたることから流れ込みによるものと考えられる。

遺物は各層中から輸入陶磁器、土師器坏a・同小皿a・同鍋、瓦器碗c・同小皿a、常滑焼甕・東播系須恵器鉢・同甕、龜山焼甕、砥石、土錘、滑石製品等が出土した。その中でも輸入陶磁器の数は多く、龍泉窯系青磁・同安窯系青磁・白磁の他、青白磁や中国陶器なども見られる。(Tab 1)

これらの陶磁器は大宰府区分(出土傾向)(註1)のC・D・E・F期にあたるもので、これらの量的な比較においては、白磁碗Ⅷ類や龍泉窯系青磁碗I-2類・同安窯系青磁碗I-1-bを標識とするD期のものが最も多く、次に龍泉窯系青磁碗I-5-b類・同碗Ⅲ類や白磁ⅢIX類を標識とするF期のもの、最後に白磁碗II～IV類を標識とするC期のものと続く。C・E期の遺物はそれぞれD・F期にも残存して出土する傾向にあるので、陶磁器から考えられる年代は大きく12世紀中頃～後半と13世紀中頃～14世紀前半に分けられる。また、最近、豊後地域でも大分市下郡遺跡群、羽田遺跡、府内城三ノ丸遺跡などで確認され始めた瓦器碗も出土し、単位の太いヘラミガキが施されていることから、和泉型瓦器碗と判断される。口径は14.6cm、器高4.8cm、器高指数32.9である。これは尾上編年(註2)のII-3期にあたり、12世紀末頃に比定されると考えられる。さらに、須恵器が一定量出土していることも注目される。東播系須恵器が主体を占めるが、少量の龜山焼甕も含まれる。これらには型式差が認められ、12世紀から13世紀代のものと考えられる。

ここで、これらの搬入土器と共に土師器もかなり出土しており、近年、豊後においても研究がすすむ小皿の分類を主体に、検討を試みたい。今回計測した小皿は39個体で、胎土、口径、器形を分類基準として、4類に分類した。(Tab 2)

まず、胎土に褐色粒子を含むものをI類(15点)、黒色粒子を含むものをII類(24点)とし、さらに、I類は底部から直線的に立ち上がる体部を有するものをI-a類、底径が小さく、直線的に立ち上がり、器高が高いものをI-b類(大宰府分類の小皿bに相当する。)、厚めの底部から直線的に短く立ち上がるものをI-c類とした。II類はすべて底部から内湾ぎみに立ち上がる体部を有する。これらのことから、胎土と器形が相関する可能性が指摘でき、生産地の差異と解釈できよう(註3)。また、口径を5mm単位で区分した結果、口径が大きいものから小さいものになるにつれて減少するということが判明した。その中でも、I類だけでは口径が大きいも

のから小さいものになるにつれて、個体数が増加し、Ⅱ類では逆に口径が小さくなるにつれて、減少していた。この現象はこれらが系譜差として同時併存していたことを示すものとも考えられ、陶磁器の出土量と太宰府の土師器編年(註4)から、個体数の多い口径9.0cm前後のⅠ-1類、Ⅱ-1類が太宰府区分のD期(12世紀中頃～後半)の一時期に比定され、口径8.0cm～8.5cm前後のⅠ-2・3類、Ⅱ-2類が太宰府区分のE・F期(12世紀末～14世紀前半)に比定される可能性があろう。これは、大分県内における土師器の実年代資料(弘安8年・1285年)となっている野津町八里合遺跡(註5)出土の小皿がⅠ-2・3類および、Ⅱ-2類に類似していることからも推測できる。しかし、下毛郡三光村に所在する深水邸埋納遺構(註6)では備前焼大甕に五徳・鉄鍋・和鏡などと共に、白磁碗IX類片の他、古銭50枚以上、土師器小皿58枚前後が出土している。これらの土師器小皿は口径が9.2cm前後のものが主体をなし、備前焼大甕や白磁碗などの年代観から埋納時期を、14世紀前半に比定している。報告者は太宰府・宇佐地域の編年観と異なることを指摘し、これらの土師器小皿が特注品であった可能性を考えている。この資料は一括性が高く、其伴遺物も豊富であることから、今後検討していく必要があろう。

近年、大分県における中世遺構は増加の傾向を示している。これらの遺構から一括資料を抽出し、今回の分類基準と系譜の設定を検証することが豊後における土師器編年の確定につながり、考古学的に中世社会の流通体系を考える一つの手段になると思われる。この鶴野周辺が中世敷戸氏の本貫地であると考えられていることを踏まえると、今回出土した大量の輸入陶磁器や畿内・瀬戸内地域の須恵器、そして、生産地の異なる土師器の存在は注目される。

(塩地 潤一)

註1 太宰府市史編纂委員会『太宰府市史』考古資料編 1992

山本信夫『太宰府条坊跡Ⅱ』太宰府市教育委員会 1983

註2 尾上 実「南河内の瓦器梶」『古文化談叢』 1983

註3 小柳和宏「中世土器生産小考－文書・地名から土器生産地を探る－」

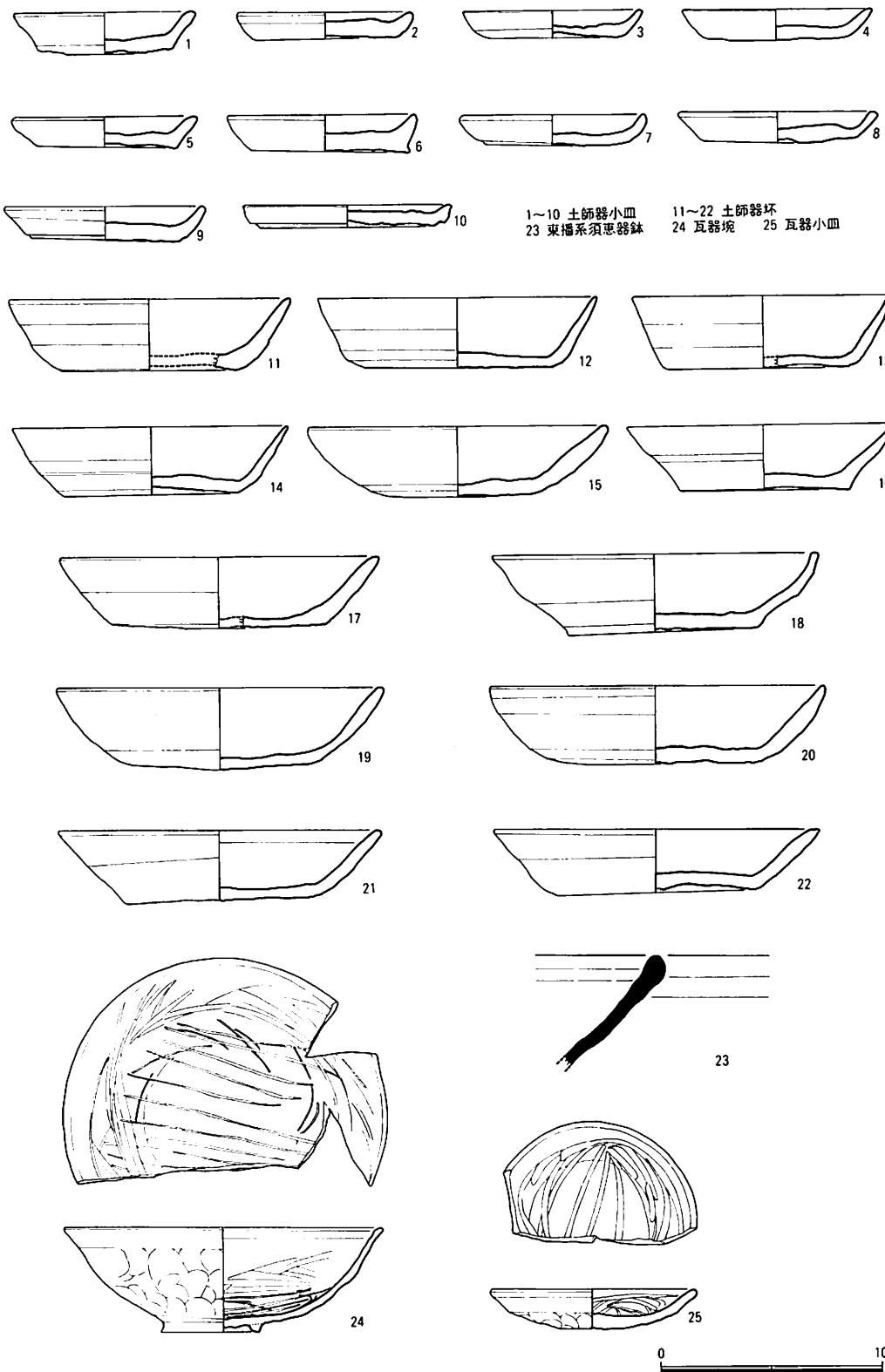
『大分県地方史』第143号 1991

註4 山本信夫「統計上の土器－歴史時代土師器の編年研究によせて－」『九州上代文化論集』

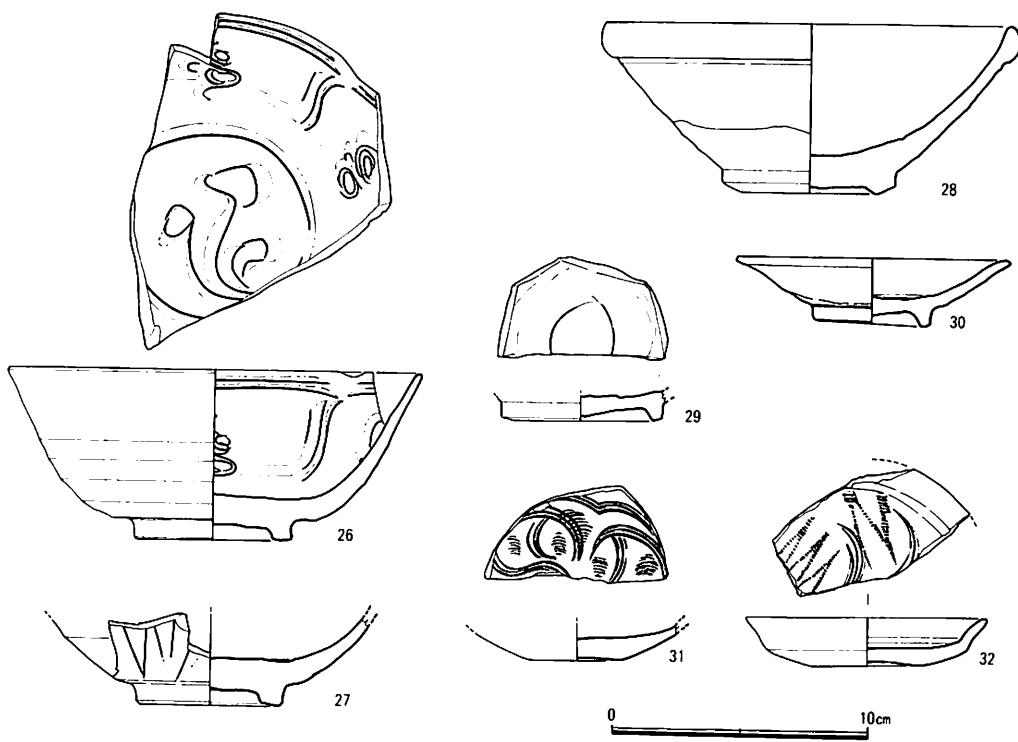
乙益重隆先生古稀記念 1990

註5 野津町教育委員会『重要文化財 五輪塔 保存修理工事報告書』 1981

註6 村上・吉田編『三光村の遺跡』三光村教育委員会 1989



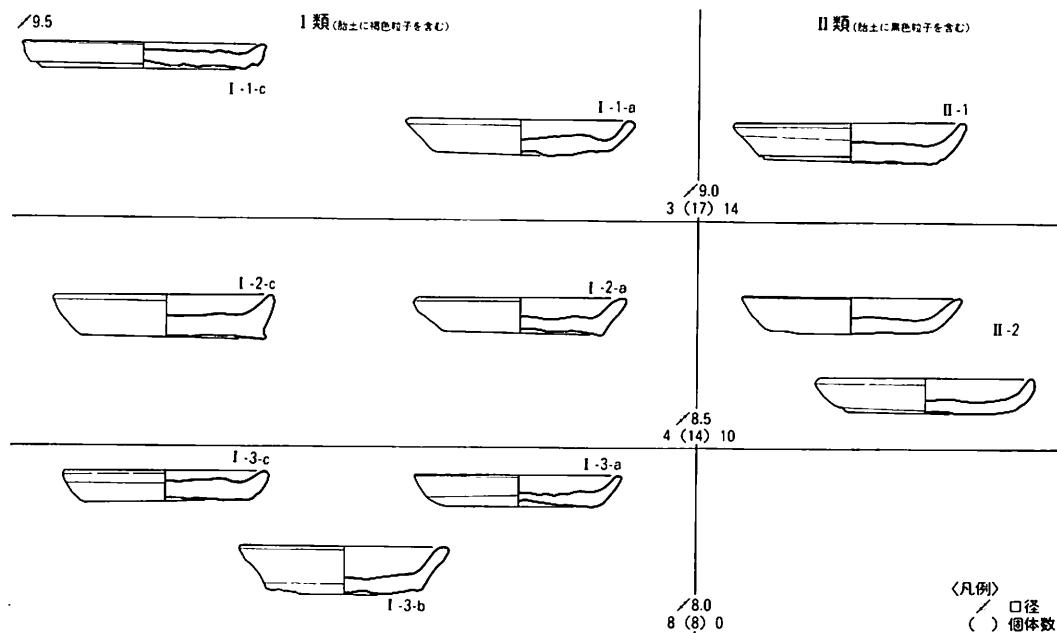
第35図 出土遺物実測図 (1/3)



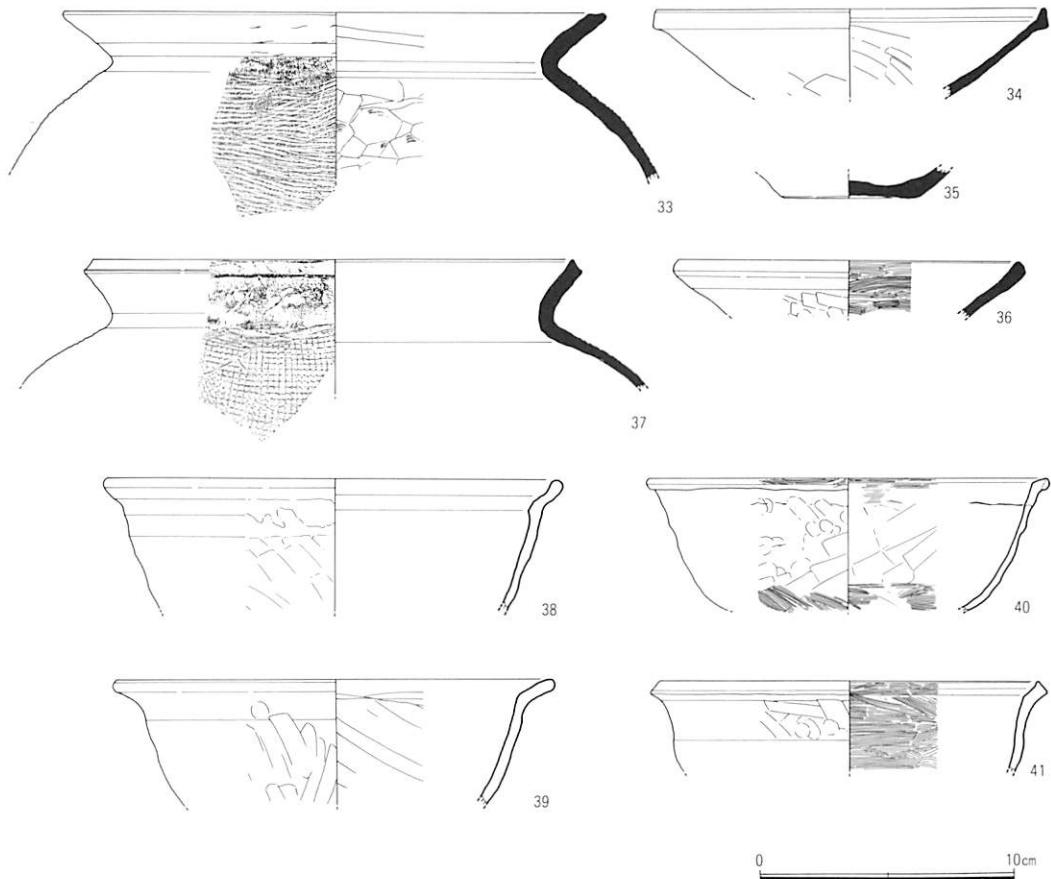
26 龍泉窯系青磁碗 I-4-b 30 自磁碗 III-1  
 27 " I-5-a 31 龍泉窯系青磁碗 I-2-b  
 28 自磁碗 IV-1-a 32 同安窯系青磁碗 I-2-b  
 29 " VI

発掘報告  
佐戸焼洋磁研究会

第36図 出土遺物実測図 (1/3)



第37図 SX001出土土師器小皿分類



33 東播系須恵器壺  
34~36 東播系須恵器鉢  
37 龜山焼須恵器壺  
38~41 土師器鍋・釜

第38図 出土遺物実測図 (1/3)

表4 SX001出土陶磁器一覧

青磁	龍泉窯系	碗	I-1(7) I-1~5(3) I-1-a(1) I-2-b(1) I-3(1) I-4-b(1)
			I-5-a(5) I-5-b(9) I-5-c(1) I-6-b(1)
		皿	III-2(1)
		小碗	I-1~4(1)
	同安窯系	皿	I-2-b(2) I-(1)
		碗	I-1-b(18)
			I-1(1) I-1-a(1) I-2(4) 龍×同リンカあり(1)
		皿	II-1(1) II(1) IV-1-a(16) IV-2(3) V(7)
白磁		碗	V-3-a(3) V-3-c(1) V-4(7) V-1×VIII-2(7) V-4-a(3)
			V-4-b(11) V-1(1) VII(2) VIII(4) VIII-2(6)
		皿	III-1(4) VI-1-a(3) IX-1(1) IX-1-c(1) IX-1-d(3) リンカあり
		水注×甌	(3)
青白磁		皿	(1)
		合子	(2)
陶器	中国陶器	鉢×壺	(1)
	褐釉陶器		(1)
	常滑	甌	(5)
	近世陶器	擂り鉢	(1)

15 光吉・宮崎・曲遺跡	調査担当 高橋・塔鼻	調査面積 (198,100) m <sup>2</sup>	調査期間 93.06~94.03	地域 A
--------------	---------------	----------------------------------	---------------------	---------

### 光吉遺跡

調査面積 53,100 m<sup>2</sup> 調査期間 93.06~94.03

本調査は、九州横断自動車道および一般国道210号線他都市計画道路併設区間に伴う発掘調査である。大分川右岸、支流である七瀬川と寒田川に挟まれた平野部に位置する。トレンチ調査の結果、耕作土から近世陶磁器の小破片が極少量出土するだけで、重要な遺構・遺物は検出されなかった。

### 宮崎遺跡

調査面積 9,500 m<sup>2</sup> 調査期間 93.06~94.03

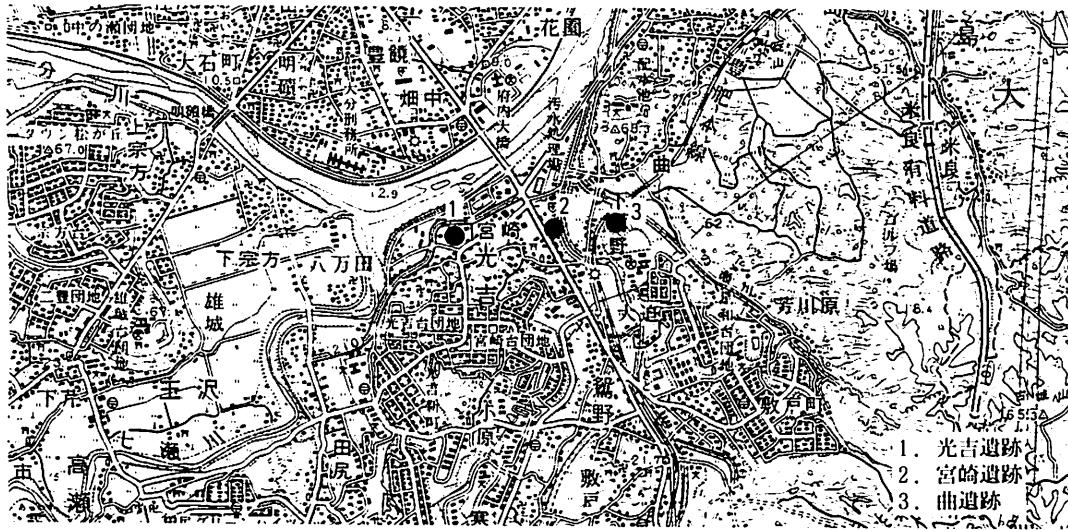
本調査は、九州横断自動車道および一般国道210号線他都市計画道路併設区間に伴う発掘調査である。大分川右岸、支流である寒田川と一の瀬川の合流部の狭隘な平野部に位置する。トレンチ調査の結果、耕作土中から近世陶磁器の小破片が極少出土するだけで重要な遺構・遺物は検出されなかった。

### 曲 遺跡

調査面積 35,500 m<sup>2</sup> 調査期間 93.06~94.03

本調査は、九州横断自動車道および一般国道210号線他都市計画道路併設区間に伴う発掘調査である。大分川右岸、支流である一の瀬川の東側に広がる平野部に位置する。当遺跡の北側台地には、弥生～中世の複合遺跡である守岡遺跡や、曲横穴墓群が存在する。また、台地南側斜面には県指定史跡「曲石仏」（鎌倉時代）が位置しており、試掘調査の結果、弥生時代から中世にかけての遺構・遺物が確認されている。特に、中世の遺構は溝状遺構と掘立柱建物跡が検出されており、守岡遺跡との関連が注目される。

（高橋 徹）



第39図 調査遺跡位置図

16 古国府遺跡群	調査担当	調査面積	調査期間	地域
	塔 鼻 光 司	1,500(8,000)m <sup>2</sup>	93.05~94.03	A

本調査は大分市都市計画道路古国府木ノ上線建設に伴う発掘調査で、今回で3次目である。当遺跡一帯は大分平野で最大の条理遺構が存在している所であり、また、古国府・羽屋地区は上野台地と共に豊後国府推定地として注目されている所である。1次・2次調査では古墳時代の住居跡、溝状遺構、8世紀代と思われる掘立柱建物跡などが検出されており、本調査でもその関連遺構を想定していたが、僅かに柱穴が確認されたのみであった。今回の調査では調査区の制限などから確認できなかったが、今後、水田等生産遺構の存在などを総合的に検討する必要があろう。

(塔鼻光司)

## 第 IV 章 受贈図書目録

### 1. 調査報告書

#### 群馬県

浜川北遺跡 浜川北住宅団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査概報	高崎市教育委員会 1989
八幡遺跡 八幡住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	高崎市教育委員会 1989
高崎市内遺跡緊急埋蔵文化財発掘調査報告 群馬県高崎市文化財調査報告書第109集	高崎市教育委員会 1990
柴崎村間遺跡スイミングスクール建設に伴う埋蔵文化財調査概報	高崎市教育委員会 1990
山名原口Ⅱ遺跡 高崎職業訓練短期大学校学生寮建設に伴う発掘調査報告	高崎市教育委員会 1991
西浦、吹手西遺跡 高崎都市計画道路南八幡京ヶ島線に伴う埋蔵文化財発掘調査概報	高崎市教育委員会 1991
石原鶴辺団地Ⅰ遺跡 市営住宅建替えに伴う埋蔵文化財調査概報	高崎市教育委員会 1991
高崎市内遺跡 埋蔵文化財緊急発掘調査報告書112集	高崎市教育委員会 1991
上佐野船橋Ⅲ遺跡 宅地造成に伴う埋蔵文化財調査概報	高崎市遺跡調査会 1992
上中居辻薬師Ⅱ遺跡 都市計画道路環状線ほか1線建設に伴う埋蔵文化財 発掘調査報告書 群馬県高崎市文化財発掘調査報告書第122集	高崎市教育委員会 1992
高闕根村遺跡 都市計画道路3、3、9（環状線）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	高崎市教育委員会 1992
土中居早道場遺跡 高崎市都市計画道路駅東口線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報	高崎市教育委員会 1992
高崎市内遺跡 埋蔵文化財緊急発掘調査報告書120集	高崎市教育委員会 1992
上佐野船橋Ⅱ遺跡、高崎城Ⅶ（追手門）遺跡、引間Ⅲ遺跡、島野神明遺跡、 東町Ⅱ遺跡南新波大道上遺跡	高崎市教育委員会 1992
稻荷町Ⅰ遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書	高崎市教育委員会 1992
上並榎屋敷前遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書	高崎市教育委員会 1992
中尾所之免遺跡 高崎市文化財調査報告書第123集	高崎市教育委員会 1993
井野高繩遺跡、上並榎下松Ⅱ遺跡、石原鶴辺団地Ⅱ遺跡、飯塚東金井遺跡、 埋蔵文化財展事業について発掘調査概要 高崎市文化財調査報告書第124集	高崎市教育委員会 1993
高崎城下町遺跡 城址周辺土地区画整理事業都市計画道路高崎駅西口線築造に伴う 埋蔵文化財発掘調査概報 高崎市文化財調査報告書第125集	高崎市教育委員会 1993
紫崎遺跡群、南大類遺跡群、国道354号（高崎第二工区）道路改良工事に 伴う埋蔵文化財発掘調査概報 高崎市文化財調査報告書第126集	高崎市教育委員会 1993
高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 高崎市文化財調査報告書第127集	高崎市教育委員会 1993

山名戸矢遺跡 山名住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

高崎市遺跡調査会 高崎市教育委員会 1993

高崎城X、高崎城梅、木郭遺跡

高崎市遺跡調査会 1993

前橋地方家庭裁判所高崎支部庁舎増築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報

高崎市遺跡調査会 1993

群馬県高崎市 東金井Ⅱ遺跡 埋蔵文化財発掘調査報告書

高崎市遺跡調査会 1993

**東京都**

武藏台東遺跡発掘調査概報3 武藏国分尼寺北方地方

一都営川越道住宅改築に伴う平成4年度発掘調査概報 都営川越道住宅遺跡調査会 1993

武藏国分寺関連遺跡の調査IV 南方地区・府中都市計画道路3・2・2の2号

線に伴う平成4年度発掘調査概報 武藏国分寺関連(府中3・2・2の2号線)遺跡調査会 1993

**神奈川県**

相模国分寺関連遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ

相模国分尼寺跡平成4年度埋蔵文化財発掘調査事業 海老名市教育委員会 1993

大谷向原遺跡(遺物編・遺構編)

海老名市遺跡調査会 1992

大谷真鯨遺跡 神奈川県海老名市

大谷真鯨調査団 1992

**岐阜県**

大垣市埋蔵文化財調査概要 平成3年度 大垣市文化財調査報告書第22集 大垣市教育委員会 1992

遺跡詳細分布調査概要報告書(II) 平成二年度 大垣市文化財調査報告書第21集

大垣市教育委員会 1993

長塚古墳 -範囲確認調査報告書- 大垣市埋蔵文化財調査報告書第3集

大垣市教育委員会 1993

**愛知県**

正木町遺跡 第3次調査概報

名古屋市教育委員会 1989

名古屋城本町御門城 発掘調査概要報告書

名古屋市教育委員会 1992

菩薩遺跡 第3次発掘調査概要

名古屋市教育委員会 1992

荒池北古窯( NN335窯) 発掘調査報告書

名古屋市教育委員会 1993

豊三蔵通遺跡 -第12次調査の概要-

名古屋市教育委員会 1993

NN288号窯・NN289号窯発掘調査報告書

名古屋市教育委員会 1993

見晴台遺跡 -第29次発掘調査の記録-

名古屋市見晴台考古資料館 1993

豊川市内遺跡発掘調査概報Ⅱ

豊川市教育委員会 1993

麻生田大橋遺跡発掘調査報告書

豊川市教育委員会 1993

東畠廃寺跡発掘調査報告書(V)

稲沢市教育委員会 1993

白坂雲興寺遺跡 財團法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第6集

財團法人瀬戸市埋蔵文化財センター 1993

東山路遺跡 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター調査報告第7集 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター 1993

**静岡県**

久野城IV

静岡県袋井市教育委員会 1993

**福井県**

剣大谷1号墳発掘調査報告書

福井市教育委員会 1993

**大阪府**

豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

豊中市教育委員会 1993

八尾市内遺跡平成4年度発掘調査報告書I

八尾市文化財調査報告27平成4年度国庫補助事業

八尾市教育委員会 1993

八尾市内遺跡平成4年度発掘調査報告書II八尾市文化財調査報告28

平成4年度公共事業

八尾市教育委員会 1993

新池新地埴輪製作遺跡発掘調査報告書

高槻市教育委員会 1993

古曾部遺跡発掘調査概要 高槻市文化財調査概要IX

高槻市教育委員会 1993

塚穴古墳群 高槻市文化財調査報告書第16冊

高槻市教育委員会 1993

嶋上遺跡群17 上郡高槻市文化財調査概要XVII

高槻市教育委員会 1993

東円寺跡92-1区の調査 -東円寺跡発掘調査概要VII

熊取町教育委員会 1993

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書

熊取町教育委員会 1993

沢西遺跡発掘調査概要 貝塚市埋蔵文化財調査報告第23集

貝塚市教育委員会 1992

新井・鳥羽北遺跡発掘調査概要 貝塚市埋蔵文化財調査報告第25集

貝塚市教育委員会 1993

加治神前畠中遺跡発掘調査概要 -仮称市民文化会館の調査-

貝塚市埋蔵文化財調査報告第26集

貝塚市教育委員会 1993

加治神前畠中遺跡発掘調査概要 -市庁舎第2別館建設に伴う発掘調査-

貝塚市埋蔵文化財調査報告第27集

貝塚市教育委員会 1993

三ヶ山オニ谷遺跡発掘調査概要 貝塚市埋蔵文化財調査報告第28集

貝塚市教育委員会 1993

貝塚市遺跡群発掘調査概要15 貝塚市埋蔵文化財調査報告第29集

貝塚市教育委員会 1993

**兵庫県**

播磨国分尼寺跡遺跡 発掘事前総合調査概要報告

姫路市教育委員会 1993

尼崎城跡I第1次発掘調査(尼崎市文化財調査報告第24集)

尼崎市教育委員会 1993

芦屋廃寺遺跡G, I地点発掘調査概要報告書 芦屋市文化財調査報告第15集

昭和62年度国庫補助事業

芦屋市教育委員会 1988

**京都府**

城陽市埋蔵文化財調査報告書第23集

城陽市教育委員会 1993

正道官衛遺跡(城陽市埋蔵文化財調査報告書) 第24集

城陽市教育委員会 1993

## 三 重 県

### 鳥居本遺跡近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告

－第3分冊10－

三重県教育委員会三重県埋蔵文化財センター 1991

### 城之越遺跡－三重県上野市比土－

三重県埋蔵文化財センター 1992

### 一般県道田丸停車場斎明線道路改良事業に伴う波瀬B遺跡発掘調査報告

三重県埋蔵文化財センター 1992

### 一般地方道安乗港線道路特殊改良事業に伴う西殿遺跡発掘調査報告

三重県埋蔵文化財センター 1992

### ヒタキ廃寺・打田遺跡・阿形遺跡ほか 三重県埋蔵文化財調査報告99－2

三重県埋蔵文化財センター 1992

### 埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ 一般国道42号松坂・多気バイパス

三重県教育委員会、三重県埋蔵文化財センター 1993

### 埋蔵文化財発掘調査概報V 一般国道23号中勢道路

三重県埋蔵文化財センター 1993

### 多気遺跡群発掘調査報告－一志郡美杉村上多気所在－

三重県埋蔵文化財センター 1993

### 波田須城跡発掘調査報告－熊野市波田須町－

三重県埋蔵文化財センター 1993

### 伊賀国府跡・箕升氏館跡ほか（第5次）

三重県埋蔵文化財センター 1993

### 東浦遺跡・椋本南方遺跡ほか

三重県埋蔵文化財センター 1993

### 近畿自動車道（勢和～伊勢）埋蔵文化財発掘調査報告－第6分冊－

三重県教育委員会、三重県埋蔵文化財センター 1993

### 天白遺跡 三重県志郡嬉野町

三重県埋蔵文化財センター 1993

### 御池古墳群 四日市市遺跡調査会文化財調査報告書X－造成工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書－

四日市市教育委員会 1993

### 赤堀城跡3－電力供給用地中送電線新設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書－四日市市遺跡調査会 1993

### 平成3年度団体営土地改良総合整備事業に伴う六大B遺跡発掘調査報告 津市教育委員会 1992

### 蔵田遺跡、平田遺跡、位田東遺跡三重産業振興センター

津市北河路町三重産業振興センター埋蔵文化財発掘調査概報

津市教育委員会 1993

## 奈 良 市

### 飛鳥・藤原宮発掘調査概報23

奈良国立文化財研究所 1993

### 平城京東市跡推定地の調査X 第12次発掘調査概報

奈良市教育委員会 1992

### 平城京東市跡推定地の調査XI 第13次発掘調査概報

奈良市教育委員会 1993

### 奈良市埋蔵文化財調査概要報告書

奈良市教育委員会 1993

### 橿原市埋蔵文化財発掘調査概報 平成4年度（田中庵寺・藤原京跡）

橿原市教育委員会 1993

### 中宮寺跡発掘調査概報 斑鳩町

斑鳩町教育委員会 奈良県立橿原考古学研究所 1988

### 中宮寺跡第4次発掘調査概報 斑鳩町

斑鳩町教育委員会 奈良県立橿原考古学研究所 1993

斑鳩藤ノ木古墳

斑鳩町教育委員会 1993

**鳥取県**

寺内京内遺跡

鹿野町教育委員会 1993

**岡山県**

折敷山遺跡・雲上山11号墳 総社市埋蔵文化財発掘調査報告10

総社市教育委員会 1993

藤原北古墳群 総社市埋蔵文化財発掘調査報告11

総社市教育委員会 1993

牛飼山古墳群 総社市埋蔵文化財発掘調査報告12

総社市教育委員会 1993

すりばち池古墳群 総社市埋蔵文化財発掘調査報告13

総社市教育委員会 1993

小丸山（中山中）遺跡発掘調査報告

岡山市教育委員会 1993

岡山市指定重要文化財 安住院本堂保存修理報告書

岡山市教育委員会 1993

**広島県**

草戸千軒町遺跡発掘調査報告 I 北部地域北半部の調査

広島県草戸千軒町遺跡調査研究所 1993

證林山明正寺故地確認調査報告書

福山市教育委員会 1993

備後国府跡 -推定地にかかる1990年度調査-

府中市教育委員会 1992

備後国府跡 -推定地にかかる1991年度調査-

府中市教育委員会 1993

埋蔵文化財調査報告書 東広島市教育委員会文化財調査報告書第13号

東広島市教育委員会 1989

福神3号遺跡発掘調査報告書 東広島市教育委員会文化財調査報告書第24集 東広島市教育委員会 1993

桃坂城跡発掘調査報告書 東広島市教育委員会文化財調査報告書第27集 東広島市教育委員会 1993

埋蔵文化財調査報告 福岡山3号遺跡・湯谷迫遺跡・丸山神社第3号古墳・

諏訪面遺跡・北古屋城跡・土居の内館跡 東広島市教育委員会 1993

相方地区埋蔵文化財発掘調査の速報（第13回現地説明会資料）

新市町教育委員会 新市町立歴史民俗資料館 1993

**山口県**

足河内遺跡・炭釜遺跡 山口県下関市大字吉田吉田地方地内足河内遺跡

炭釜遺跡発掘調査報告書 下関市教育委員会 1993

桐ヶ谷・尾口山遺跡山口県埋蔵文化財調査報告第44集

-銅銭司団地造成に伴う発掘調査報告- 山口市教育委員会 山口市文化財センター 1993

寺内遺跡 山口市埋蔵文化財調査報告第45集 山口市教育委員会 山口市文化財センター 1993

下長野遺跡 山口市埋蔵文化財調査報告第46集 山口市教育委員会 山口市文化財センター 1993

周防国府跡 山陽本線防府駅周辺連続立体交差事業、江川改修工事、

都市計画街路整備事業に伴う発掘調査概要報告書 周防国府跡調査会 防府市教育委員会 1993

水金古墳 柳井市教育委員会 1992

**愛媛県**

かいなご3号墳・平井谷1号墳松山市文化財調査報告書

松山市教育委員会 1993

山越・久万ノ台の遺跡山越1、2、3 次久万ノ台野津子山	松山市教育委員会	1993
影浦谷古墳松山市文化財調査報告書33	松山市教育委員会 埋蔵文化財センター	1993
－古照遺跡－ 第6次調査	松山市教育委員会	1993
来往廃寺遺跡 第15次調査報告書 松山市埋蔵文化財調査報告書34	松山市教育委員会	1993
和気・堀江の遺跡、座拝坂、金毘羅山、船ヶ谷三ツ石古墳 松山市埋蔵文化財調査報告書36	松山市教育委員会	1993
道後城北遺跡群Ⅱ道後今市9次、道後驚谷、祝谷大地ヶ田 松山市埋蔵文化財調査報告書37	松山市教育委員会	1994
江口貝塚Ⅰ－縄文前中期編－ 愛媛大学法文学部考古学研究報告第2冊	愛媛大学法文学部考古学研究室	1993
樽味遺跡Ⅱ 樽味遺跡2次調査報告	愛媛大学埋蔵文化財調査室	1993
愛媛県波方町・江口貝塚第2次、第3次発掘調査資料 1990～1991	波方町教育委員会	1992

### 香川県

高松市内埋蔵文化財試掘調査概報（平成3年度、4年度）	高松市教育委員会	1993
弘福寺領讃岐国山田郡田園関係遺跡比定地域発掘調査概報Ⅳ		
－弘福寺領讃岐国山田郡田園関係遺跡発掘調査事業に伴う調査概要－	高松市教育委員会	1993
浴・長池遺跡－一般国道11号高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	高松市教育委員会	1993

### 徳島県

阿波国府跡第10次調査概要 1991年度	徳島市教育委員会	1991
徳島市埋蔵文化財発掘調査概要2 1992	徳島市教育委員会	1992
徳島市埋蔵文化財発掘調査概要3 1993	徳島市教育委員会	1993

### 福岡県

辻垣ヲサマル遺跡 福岡県行橋市大字辻垣所在遺跡の調査	福岡県教育委員会	1993
一般国道10号線椎田道路関係埋蔵文化財調査報告第1集	福岡県教育委員会	1993
日永遺跡1 浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告第6集	福岡県教育委員会	1993
朝倉郡杷木町所在鞍掛・前田・西ノ迫遺跡の調査	福岡県教育委員会	1993
九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告25	福岡県教育委員会	1993
福岡県三井郡大刀洗町所在宮巡遺跡・春園遺跡・十三塚遺跡	福岡県教育委員会	1993
九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告26	福岡県教育委員会	1993
朝倉郡朝倉町所在上の原遺跡の調査Ⅱ 九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告27	福岡県教育委員会	1993
中畑南遺跡・中畑遺跡 新門司インターチェンジ及び県道新門司港大里線、		

市道99号線市道100号線建設に伴う発掘調査 北九州市教育委員会 1993

上清水遺跡V区（奈良時代以降編）－九州縦貫自動車道関係文化財調査報告28－本文編  
北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1992

上清水遺跡V区（奈良時代以降編）－九州縦貫自動車道関係文化財調査報告28－図版編  
北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1992

金山遺跡II区－都市計画道路横代28号線建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告1－  
北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1992

徳力土地区画整理事業関係調査報告5上：徳力遺跡第18.19.20地点  
北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1992

徳力土地区画整理事業関係調査報告6：守恒遺跡第8地点  
北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1992

徳力遺跡（下）－都市モノレール小倉線及び国道322号線築造工事に伴う発掘調査－  
北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1992

尾崎遺跡－九州縦貫自動車道関係文化財調査報告29－ 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1992

大追遺跡－九州縦貫自動車道関係文化財調査報告30－ 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1992

京町遺跡1－小倉駅前東地区第1種市街地再開発事業関係－  
北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1992

貫川遺跡7－貫川都市小河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告6－  
北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1993

大手町遺跡  
北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1993

長野、早田遺跡第3地点－竹馬川都市小河川改修工事に伴う埋蔵文化財調査報告2－  
北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1993

長野、早田遺跡第1地点－竹馬川都市小河川改修工事に伴う埋蔵文化財調査報告3－  
北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1993

黒崎貝塚  
北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1993

中伏遺跡2－金山川都市小河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告2－  
北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1993

中畑南遺跡第3地点－新門司インターチェンジ設置に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書－  
県道新門司港大里線・市道畑99号線及び畑100号線建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書－  
北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1993

石田・原遺跡（第3・4地点の調査）  
北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1993

高津尾遺跡6（18区の調査）－九州縦貫自動車道関係文化財調査報告31－

カキ遺跡（縄文時代編）－九州縦貫自動車道関係文化財調査報告33－  
北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1993

カキ遺跡（古墳時代編）－九州縦貫自動車道関係文化財調査報告34－

北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 1993

高津尾遺跡17区発掘調査報告書 福岡県北九州市小倉南区所在遺跡の調査

北九州市教育委員会 法政大学文学部考古学研究室 1993

博多32－博多遺跡群第68次発掘調査報告福岡市埋蔵文化財調査報告書第287集－

福岡市教育委員会 1992

相原古墳群2－C群第1次・2次、E群第1次調査の報告－

福岡市教育委員会 1993

能古島－能古島遺跡発掘事前総合調査報告書－

福岡市教育委員会 1993

山ノ鼻2号墳

福岡市教育委員会 1993

香椎A 福岡市埋蔵文化財調査報告書第317集

福岡市教育委員会 1993

名島城跡I 福岡市埋蔵文化財調査報告書第318集

福岡市教育委員会 1993

吉塚本町遺跡1－吉塚本町遺跡第1次調査報告書－

福岡市埋蔵文化財調査報告書第319集 福岡市教育委員会 1993

吉塚本町遺跡2次調査の報告 福岡市埋蔵文化財調査報告書第320集

福岡市教育委員会 1993

立花寺2－第2次調査報告－福岡市埋蔵文化財調査報告書第321集

福岡市教育委員会 1993

雀居遺跡1－第2次調査の報告－福岡市埋蔵文化財調査報告書第322集

福岡市教育委員会 1993

那珂7－那珂遺跡第19次調査報告－福岡市埋蔵文化財調査報告書第323集

福岡市教育委員会 1993

那珂遺跡8－那珂遺跡第20次調査報告－福岡市埋蔵文化財調査報告書第324集 福岡市教育委員会 1993

比恵遺跡群12－比恵遺跡群第37次・39次発掘調査報告書

－福岡市埋蔵文化財調査報告書第325集 福岡市教育委員会 1993

博多34－博多遺跡群第56次発掘調査報告－福岡市埋蔵文化財調査報告書第326集 福岡市教育委員会 1993

博多35－博多遺跡群第55次調査－福岡市埋蔵文化財調査報告書第327集

福岡市教育委員会 1993

博多36－第59次調査報告－福岡市埋蔵文化財調査報告書第328集

福岡市教育委員会 1993

博多37－博多遺跡群第65次発掘調査概報－福岡市埋蔵文化財調査報告書第329集 福岡市教育委員会 1993

博多38－博多遺跡群第66次調査報告－福岡市埋蔵文化財調査報告書第330集

福岡市教育委員会 1993

博多39－第75次調査報告－福岡市埋蔵文化財調査報告書第331集

福岡市教育委員会 1993

博多40－博多遺跡群第76次調査の報告－福岡市埋蔵文化財調査報告書第332集

福岡市教育委員会 1993

野多目桔渡遺跡4 福岡市埋蔵文化財調査報告書第333集

福岡市教育委員会 1993

千隈遺跡－飯倉G遺跡1～3次調査福岡市埋蔵文化財調査報告書第334集

福岡市教育委員会 1993

タカバン塚古墳 福岡市埋蔵文化財調査報告書第335集

福岡市教育委員会 1993

飯倉C遺跡2－飯倉遺跡群C地区第3次調査－福岡市埋蔵文化財調査報告書第336集

福岡市教育委員会 1993

福岡市早良区原遺跡7－第16調査の報告－福岡市埋蔵文化財調査報告書第337集

福岡市教育委員会 1993

藤崎遺跡8－藤崎遺跡 第20・21次調査－福岡市埋蔵文化財調査報告書第338集 福岡市教育委員会 1993  
有田・小田部第17集－第160・169じ調査－福岡市埋蔵文化財調査報告書第339集

福岡市教育委員会 1993  
有田・小田部第18集 福岡市埋蔵文化財調査報告書第340集 福岡市教育委員会 1993  
熊本遺跡群 I 福岡市埋蔵文化財調査報告書第341集 福岡市教育委員会 1993  
岩本遺跡－岩本遺跡群第3次調査報告－福岡市埋蔵文化財調査報告書第342集 福岡市教育委員会 1993  
入部IV 福岡市埋蔵文化財調査報告書第343集 福岡市教育委員会 1993  
脇山V－県営圃場整備事業に伴う脇山A遺跡6次、大門遺跡1次調査報告－  
福岡市埋蔵文化財調査報告書第344集 福岡市教育委員会 1993  
羽根戸古墳群2 福岡市埋蔵文化財調査報告書第345集 福岡市教育委員会 1993  
羽根戸古墳群3－B群4号墳調査報告－福岡市埋蔵文化財調査報告書第346集 福岡市教育委員会 1993  
羽根戸古墳群4－羽根戸古墳群B群5号墳の調査－  
福岡市埋蔵文化財調査報告書第347集 福岡市教育委員会 1993  
福岡市西区 野方久保遺跡II 福岡市埋蔵文化財調査報告書第348集 福岡市教育委員会 1993  
拾六町平田遺跡2－第2次調査－福岡市埋蔵文化財調査報告書第349集 福岡市教育委員会 1993  
青木遺跡2－青木遺跡第2次発掘調査－福岡市埋蔵文化財調査報告書第350集 福岡市教育委員会 1993  
飯氏遺跡群1 国道202号線今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告IV  
福岡市埋蔵文化財調査報告書第352集 福岡市教育委員会 1993  
鴻臚館跡III 福岡市埋蔵文化財調査報告書第355集 福岡市教育委員会 1993  
上内地区遺跡群II 上内、上寺鶴遺跡上内、鍛冶屋遺跡 大牟田市教育委員会 1993  
平塚川添遺跡発掘調査概報 甘木市教育委員会 1993  
史跡御所ヶ谷神籠石保存管理計画策定報告書 行橋市文化財調査報告書第21集  
行橋市教育委員会 1993  
苅又地区遺跡群 苅又地区画整理事業関係埋蔵文化財調査概報1 平成2年度調査概報  
小郡市教育委員会 1992  
北松尾口遺跡III、IV地点 三沢土地区画整理事業関係埋蔵文化財調査報告6  
小郡市文化財調査報告書（上巻） 小郡市教育委員会 1992  
北松尾口遺跡III、IV地点 三沢土地区画整理事業関係埋蔵文化財調査報告6  
小郡市文化財調査報告書（下巻） 小郡市教育委員会 1992  
津古片曾葉遺跡 小郡市文化財調査報告書78集  
团体営津古地区圃場整備事業関係埋蔵文化財調査報告 小郡市教育委員会 1992  
津古内畠遺跡6 小郡市文化財調査報告書第81集 小郡市教育委員会 1992  
松ノ尾古墳群 福岡県糟屋郡志免町所在平成の森公園建設に伴う  
古墳群の発掘調査報告志免町文化財 調査報告書第4集 小郡市教育委員会 1993

亀山古墳 福岡県糟屋郡志免町所在大型石棺墓の発掘調査報告志免町文化財調査報告書第5集

小都市教育委員会 1993

仲島遺跡XI 福岡県大野城市仲畑所在遺跡調査報告 大野城市文化財調査報告書第37集

大野城市教育委員会 1993

牛頸胴ノ元古墳牛頸土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書IV

大野城市文化財調査報告書第38集 大野城市教育委員会 1993

牛頸月ノ浦窯跡群牛頸土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書V

大野城市文化財調査報告書第39集 大野城市教育委員会 1993

牛頸小田浦遺跡群 大野城市文化財調査報告書第40集 大野城市教育委員会 1993

牛頸ハセムシ窯跡群III 福岡県大野城市大字牛頸所在窯跡群調査報告

大野城市文化財調査報告書第41集 大野城市教育委員会 1993

太宰府天満宮参道 -鳥居解体等に関する調査- 太宰府市教育委員会 1993

太宰府・佐野地区遺跡群III -尾崎遺跡第1次調査- 太宰府市教育委員会 1993

太宰府・佐野地区遺跡群IV -宮ノ本遺跡第7-1次調査- 太宰府市教育委員会 1993

曾根遺跡群高上石町遺跡 福岡県前原市大字高上字石町所在遺跡の調査

前原市文化財調査報告書第44集 前原市教育委員会 1993

前原地区遺跡群III 福岡県前原市大字前原通称上町所在の遺跡

前原市文化財調査報告書第45集 前原市教育委員会 1993

蔵持古屋敷遺跡、高祖遺跡群II 前原市文化財調査報告書第46集

平成4年度前原市公共施設建設に伴う埋蔵文化財調査報告書 前原市教育委員会 1993

今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告IV 福岡県前原市大字東所在古墳群の調査報告

前原市文化財調査報告書第48集 前原市教育委員会 1993

本田孝田遺跡・東スヌ町遺跡県道本・加布里線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

前原市文化財調査報告書第49集 前原市教育委員会 1993

平原周辺遺跡4 福岡県前原市国指定史跡「曾根遺跡群」重要遺跡確認調査概要

前原市文化財調査報告書第50集 前原市教育委員会 1993

荻浦の文化財前原市荻浦地区区画整理事業に伴う埋蔵文化財包蔵地発掘調査の速報2

前原市教育委員会 1993

仲遺跡群 筑紫郡那珂川町大字仲字炭焼ノ下所在遺跡群の調査

那珂川町文化財調査報告書第32集 那珂川町教育委員会 1993

縄手古墳群 福岡県遠賀郡岡垣町所在遺跡の調査岡垣町文化財調査報告書第13集 岡垣町教育委員会 1993

井掘遺跡 福岡県遠賀郡岡垣町所在遺跡の調査岡垣町文化財調査報告書第14集 岡垣町教育委員会 1993

高塚遺跡 福岡県遠賀郡岡垣町所在遺跡の調査岡垣町文化財調査報告書第15集 岡垣町教育委員会 1993

室木中畑遺跡 福岡県鞍手町文化財調査報告書 鞍手町教育委員会 1993

本郷野開遺跡 福岡県三井郡大刀洗町大字本郷所在遺跡の調査報告

大刀洗町文化財調査報告書第4集

大刀洗町教育委員会 1993

下高橋上野遺跡 福岡県三井郡大刀洗町大字下高橋所在遺跡の調査概要報告

大刀洗町文化財調査報告書第5集

大刀洗町教育委員会 1993

豊前国府 平成4年度発掘調査概報 豊津町文化財調査報告書第12集

豊津町教育委員会 1993

九州大学埋蔵文化財調査報告－九州大学筑紫地区遺跡群－九州大学春日原地区埋蔵文化財調査室 1993

番塚古墳－福岡県京都郡苅田町所在前方後円墳の発掘調査－ 九州大学文学部考古学研究室 1993

## 佐賀県

佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書10

佐賀県文化財調査報告書第108集

佐賀県教育委員会 1992

佐賀県地籍図集成（三）肥前図 神崎郡二 佐賀県文化財調査報告書第109集 佐賀県教育委員会 1992

朝日北遺跡 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書（15） 佐賀県教育委員会 1992

増田遺跡群I－増田遺跡2区の調査－佐賀市文化財調査報告書第43集 佐賀県教育委員会 1993

宿野遺跡 佐賀市文化財調査報告書第44集 佐賀県教育委員会 1993

篠木野遺跡（2.3.4.5区）琵琶原遺跡（2.3区）佐賀市文化財調査報告書第45集

佐賀市教育委員会 1993

観音遺跡 佐賀市文化財調査報告書第46集

佐賀市教育委員会 1993

千布二本黒木遺跡 佐賀市文化財調査報告書第47集

佐賀市教育委員会 1993

大野原遺跡 佐賀市文化財調査報告書第48集

佐賀市教育委員会 1993

牟田寄遺跡 佐賀市文化財調査報告書第48集

佐賀市教育委員会 1993

瓶屋窯跡・瓶屋遺跡・餅田窯跡－伊万里市脇田町・松浦町所在近世窯跡調査の概要－

伊万里市文化財調査報告書第27集 伊万里市内古窯跡調査報告第6集

伊万里市教育委員会 1989

川内野遺跡・平山遺跡圃場整備地区内遺跡の調査概要

伊万里市文化財調査報告書第31集

伊万里市教育委員会 1990

みやこ遺跡III 武雄市文化財調査報告書第28集

六角川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

武雄市教育委員会 1993

七曲窯跡 武雄市文化財調査報告書第30集

武雄市教育委員会 1993

七曲遺跡 武雄市文化財調査報告書第31集

武雄市教育委員会 1993

多蛇古古墳 武雄市文化財調査報告書第32集宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

武雄市教育委員会 1993

本村籠遺跡（1次調査）、於保三本松遺跡（第1次調査）大和町文化財調査報告書第10集

佐賀県佐賀郡大和町大字池上所在遺跡の調査報告

大和町教育委員会 1990

肥前国分寺跡－第4次発掘調査－佐賀県佐賀郡大和町大字尼寺所在遺跡の調査報告

大和町教育委員会 1990

小川遺跡 佐賀県佐賀郡大和町大字久池井所在小川遺跡 2次調査の記録

大和町文化財調査報告書第14条

大和町教育委員会 1991

東山田一本杉遺跡(1次調査)、西山田天神遺跡(1、2次調査)、西山田二本松遺跡(1次調査)

西山田三本松遺跡(1次調査) 大和町文化財調査報告書第13集

大和町教育委員会 1991

平成2年度大和町内遺跡確認調査 佐賀県佐賀郡大和町所在遺跡の確認調査報告

大和町文化財調査報告書第16集

大和町教育委員会 1992

尼寺一本松遺跡 佐賀県佐賀郡大和町大字尼寺所在尼寺一本松遺跡2次調査の記録

大和町文化財調査報告書第17集

大和町教育委員会 1992

築山経塚 佐賀県佐賀郡大和町大字尼寺所在遺跡の調査概要報告

大和町文化財調査報告書第18集

大和町教育委員会 1992

横武城跡 (XII区) 佐賀県神埼郡神埼町大字横武所在遺跡の発掘調査報告書 神埼町教育委員会 1993

城原三本谷北遺跡・城原三本谷南遺跡

佐賀県神埼郡神埼町大字城原所在遺跡の発掘調査報告書

神埼町教育委員会 1993

**長崎県**

銅座町遺跡 十八銀行本店敷地埋蔵文化財発掘調査報告書

長崎市埋蔵文化財調査協議会 1993

栄町遺跡 -ビル建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-

長崎市埋蔵文化財調査協議会 1993

**熊本県**

大江遺跡群 II -大江遺跡群第3次調査区発掘調査報告書-

熊本市教育委員会 1993

神水遺跡 II -神水遺跡第3次調査区発掘調査報告書-

熊本市教育委員会 1993

大矢遺跡調査概報 熊本県本渡市

本渡市教育委員会 1993

**宮崎県**

吾平原第2遺跡・宮ノ前第2遺跡・城ノ原遺跡

宮崎県教育委員会 1993

崩先地下式横穴墓群 県営広域農業農道整備事業沿海南部地区串間市

七ツ橋I区工事に伴う埋蔵文化財調査報告書

宮崎県教育委員会 1993

上山ノ丸遺跡・北ノ迫遺跡・小丸遺跡県道宮崎～北郷線地方道特別改良

1種工事に伴う発掘調査報告書

宮崎県教育委員会 1993

史跡蓮ヶ池横穴群 保存環境整備事業報告書

宮崎市教育委員会 1992

丸谷地区遺跡群、上大五郎遺跡都城市文化財調査報告書第22集

都城市教育委員会 1993

延岡城内遺跡C遺跡地点・吉野遺跡B地点・吉野遺跡C地点・横谷遺跡・

黒土田遺跡・延岡城内遺跡B、D地点延岡市文化財調査報告書第10集 延岡市教育委員会 1993

原田上江遺跡群・蔵元・江光寺・中満遺跡 えびの市埋蔵文化財調査報告書第12集

えびの市教育委員会 1993

長江浦地区遺跡群・役所田・小路ノ下遺跡 えびの市埋蔵文化財調査報告書第11集

えびの市教育委員会 1993

隱山遺跡概要報告書 佐土原町文化財調査報告書第8集	佐土原町教育委員会 1993
城ヶ尾遺跡ゴルフ場建設に伴う発掘調査報告書	高崎町教育委員会 1989
上原遺跡 平成4年度細井地区県営特殊農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書	高崎町教育委員会 1993
朴木遺跡高崎町文化財調査報告書	高崎町教育委員会 1993
立切地下式横穴墓群 入木地区団体営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	高崎町教育委員会 1993
川原木寄遺跡 木城町文化財調査報告書第3集	木城町教育委員会 1993
森遺跡 中部土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	都濃町教育委員会 1993
南郷町文化財調査報告書第3集	南郷町教育委員会 1991
速日峰地区遺跡Ⅲ 平成4年度県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書	北方町教育委員会 1993

### 鹿児島県

清水城跡－宅地造成計画に伴う緊急発掘調査報告書－鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(16)	鹿児島市教育委員会 1993
谷山菊池城跡－墓地公園建設に伴う緊急発掘調査報告書－	鹿児島市教育委員会 1993

### 大分県

成田尾遺跡・今村遺跡・馬埋尾遺跡	大分県教育委員会 1992
大分空港道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ	大分県教育委員会 1992
大分県文化財調査報告第90輯 特別天然記念物カモシカ食害対策事業現地調査報告書	大分県教育委員会 1993
六郷山寺院遺構確認調査報告書Ⅰ 大分県宇佐風土記の丘歴史民俗資料館報告書第12集	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 1993
藩校進脩館跡・相原廃寺Ⅳ・中原遺跡中津市文化財報告第1集	中津市教育委員会 1992
1991年度中津地区遺跡群発掘調査概報(IV)	中津市教育委員会 1992
中津城跡(二の丸)・相原廃寺V	中津市教育委員会 1993
1992年度中津地区遺跡群発掘調査概報第12集	中津市教育委員会 1993
ボウガキ遺跡 大分県中津市所在集落調査報告書	中津市教育委員会 1993
長者原田迎遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書第5集	日田市教育委員会 1992
上野切畠山遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書第6集	日田市教育委員会 1992
西有田赤ハゲ遺跡 日田市埋蔵文化財調査報告書第7集	日田市教育委員会 1992
小迫辻原遺跡・小見取・市ノ瀬・求米里平島・町野原・徳瀬遺跡	日田市教育委員会 1993
日田地区遺跡群発掘調査概報Ⅷ	日田市教育委員会 1993
居館の里 小迫辻原遺跡	日田市教育委員会 1993

梅牟礼城址と関連遺跡発掘調査概報IV 佐伯地区遺跡群発掘調査概報IV	佐伯市教育委員会	1993
明石秘宝関係資料目録 佐伯市文化財調査報告書 明石家寄贈	佐伯市教育委員会	1993
竹田地区南部遺跡群IV	竹田市教育委員会	1993
史跡岡城跡 I 史跡岡城保存整備事業報告書（昭和60年度）	竹田市教育委員会	1986
史跡岡城跡 II 史跡岡城保存整備事業報告書（昭和61年度）	竹田市教育委員会	1987
史跡岡城跡IV 史跡岡城保存整備事業報告書（昭和63年度）	竹田市教育委員会	1989
史跡岡城跡V 史跡岡城保存整備事業報告書（平成元年度）	竹田市教育委員会	1990
史跡岡城跡VII 史跡岡城保存整備事業報告書（平成4年度）	竹田市教育委員会	1993
岡藩主おたまや公園整備事業報告書	竹田市教育委員会	1993
小部遺跡9次調査・別府遺跡8次調査・法鏡寺遺跡 宇佐地区遺跡群発掘調査概報	宇佐市教育委員会	1993
大隅遺跡 旭日地区県営圃場整備関係発掘調査報告書第9集	国東町教育委員会	1992
ワラミノ遺跡・浜崎地区・中田地区・岩屋古墳・岩屋遺跡		
北江地区国東地区遺跡群発掘調査概報III	国東町教育委員会	1992
浜崎寺山遺跡 県営圃場整備富来南部地区関係発掘調査報告書第10集	国東町教育委員会	1993
大徳院遺跡発掘調査報告書	清川村教育委員会	1993
朝地地区遺跡群発掘調査概報VII	朝地町教育委員会	1993
恵良城跡 -宅地造成工事に伴う発掘調査概報-	久重町教育委員会	1993
天然記念物オオサンショウウオ生息地保存対策調査 中間報告書	院内町教育委員会	1993

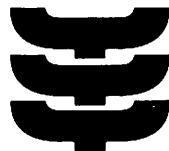
## 2. 定期刊行物・図録等

調査年報 5	北海道埋蔵文化財センター	1993
多賀城跡宮城県多賀城跡調査研究所年報1991	宮城県多賀城跡調査研究所	1992
埋蔵文化財センター年報第3号（平成5年度）	栃木県文化振興事業団埋文センター	1993
郡山の埋蔵文化財ふるさと歴史展 安積野のバイオニアたち	福島県郡山市教育委員会	1993
国立歴史民俗博物館 研究報告第47集	国立歴史民俗博物館	1993
国立歴史民俗博物館 研究報告第48集	国立歴史民俗博物館	1993
国立歴史民俗博物館 研究報告第49集	国立歴史民俗博物館	1993
国立歴史民俗博物館 研究報告第50集	国立歴史民俗博物館	1993
国立歴史民俗博物館 研究報告第51集	国立歴史民俗博物館	1993
国立歴史民俗博物館 研究報告第53集	国立歴史民俗博物館	1993
国立歴史民俗博物館 研究年報 1991・1992年度	国立歴史民俗博物館	1993
歴博58	国立歴史民俗博物館	1993
歴博59	国立歴史民俗博物館	1993

歴博60	国立歴史民俗博物館	1993
歴博61	国立歴史民俗博物館	1993
歴博62	国立歴史民俗博物館	1993
歴博62	国立歴史民俗博物館	1994
国立歴史民俗博物館博物館資料調査報告書4　日本出土の貿易陶磁西日本編1	国立歴史民俗博物館	1993
国立歴史民俗博物館博物館資料調査報告書4　日本出土の貿易陶磁西日本編2	国立歴史民俗博物館	1993
国立歴史民俗博物館博物館資料調査報告書4　日本出土の貿易陶磁西日本編3	国立歴史民俗博物館	1993
社寺の国宝・重文建造物等棟札銘文集成　－中国・四国・九州編－	国立歴史民俗博物館	1993
国立民族学博物館国内資料調査委員調査報告書14	国立民族学博物館情報管理施設	1993
千葉市の仏像	千葉市教育委員会	199
シンポジウム「東アジアの文明の盛衰と環境変動」	文部省	1992
世田谷区資料叢書第8巻	世田谷区教育委員会	1993
文晁とその門人による模写絵　－大場家所蔵絵画資料を中心に－	世田谷区立郷土資料館	1993
これは何でしょう（企画展）－なつかしの生活用具－	世田谷区立郷土資料館	1994
多摩東京移管百周年記念特別展　明治時代の八王子	八王子市郷土資料館	1993
東京大学文学部　考古学研究室研究紀要　第11号	東京大学文学部考古学研究室	1992
古代第95号縄文式から弥生式へ	早稲田大学考古学会	1993
古代第96号	早稲田大学考古学会	1993
川崎市史研究第4号	川崎市公文書館	1993
市史にいがた12	新潟市	1993
市史にいがた13	新潟市	1993
埋蔵文化財年報（4）	郡富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所	1993
見晴台教室92　－見晴台遺跡第31次発掘調査市民参加の記録－	名古屋市見晴台考古資料館	1992
年報9（1991年度事業報告）	名古屋市見晴台考古資料館	1993
瀬戸市埋蔵文化財センター年報	郡瀬戸市埋蔵文化財センター	1993
第2回　三重県埋蔵文化財発掘調査速報展　'92発掘三重	三重県埋蔵文化センター	1992
三重県埋文センター通信　みえ	三重県埋蔵文化財センター	1993
三重県埋文センター通信　みえ	三重県埋蔵文化財センター	1993
研究紀要第2号	三重県埋蔵文化財センター	1993
第13回三重県埋蔵文化財展　伊勢志摩をめぐる考古学三重県文化週間協賛事業	三重県埋蔵文化財センター	1993

四日市市文化財保護年報 3 -平成3年度-	四日市市教育委員会	1992
京都府埋蔵文化財情報 第47号	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター	1993
京都府埋蔵文化財情報 第48号	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター	1993
京都府埋蔵文化財情報 第49号	（財）京都府埋蔵文化財調査研究センター	1993
京都市の文化財 新指定の美術工芸品	京都市歴史資料館	1993
建都1200年にむけて第4回特別展 建都1100年の京都-近代化へのうねり-	京都市歴史資料館	1993
京都市歴史資料館年報No.11	京都市歴史資料館	1992
京都府埋蔵文化財情報第50号	財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター	1993
長岡京市埋蔵文化財センター年報	（財）長岡京市埋蔵文化財センター	1993
平成5年夏季企画展 -第8回泉州の遺跡-須恵器のはじまりをさぐる	（財）大阪府埋蔵文化財協会	1993
八尾市文化財紀要 6	八尾市教育委員会	1992
高槻市文化財年報 平成3年度	高槻市教育委員会	1993
羽曳野資料叢書 4 古市町米騒動裁判資料	羽曳野市	1993
羽曳野資料叢書 6 堺県法令集 2	羽曳野市	1993
奈良国立文化財研究所年報 1991	奈良国立文化財研究所	1991
奈良市埋蔵文化財調査センター紀要 1992	奈良市教育委員会	1992
平成5年度秋季特別展 古代のかお人面墨書き土器の世界	橿原市千塚資料館	1993
「木棺」～弥生から古墳へ～	桜井市埋蔵文化財センター	1993
斑鳩町の古墳	斑鳩町教育委員会	1990
いかるが	斑鳩町教育委員会	1992
奈良国立シンポジウム'91「ユネスコ・シルクロード海洋ルート調査」	（財）なら、シルクロード記念国際交流財團	1993
大和宇陀地域における古墳の研究	宇陀古墳文化研究会	1993
天理参考館報第6号	天理大学出版部	1992
秋季展 昭和58年度 -銅鐸-	（財）辰馬考古資料館	1983
秋季展 昭和59年度 -兵庫の古代寺院跡Ⅱ-	（財）辰馬考古資料館	1984
秋季展 昭和60年度 -銅鐸-	（財）辰馬考古資料館	1985
秋季展 昭和61年度 -縄文時代の造形-	（財）辰馬考古資料館	1986
秋季展 昭和62年度 -銅鐸-	（財）辰馬考古資料館	1987
景初四年銘鏡公開 古鏡展	（財）辰馬考古資料館	1988
秋季展 平成元年度 縄文式注口土器とその時代	（財）辰馬考古資料館	1999
秋季展 平成2年度 絵画のある銅鐸	（財）辰馬考古資料館	1990
秋季展 平成3年度 縄文人の生活	（財）辰馬考古資料館	1991
秋季展 平成4年度 銅鐸-その鋳造について-	（財）辰馬考古資料館	1992

秋季展 平成5年度 朝鮮半島の考古遺物－新羅土器の世界－	讃馬考古資料館	1993
史跡伯耆国分寺跡 環境整備報告書	倉吉市教育委員会	1981
総社市埋蔵文化財調査年報2	総社市教育委員会	1993
相方発むかし行き 第1号	新市町立歴史民俗資料館	1992
下関市史 資料編1	下関市	1993
山口大学構内遺跡調査研究年報XI	山口大学埋蔵文化財資料館	1993
松山市埋蔵文化財調査年報V 平成4年度		
松山市教育委員会	讃松山市生涯学習振興財團埋蔵文化財センター	1993
終末期古墳の世界－高松塚とその時代－	北九州市立考古博物館	1993
北九州市立考古博物館年報－平成4年度－	北九州市立考古博物館	1993
研究紀要－第7号－	讃北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	1993
埋蔵文化財調査年報9	讃北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	1993
福岡市 埋蔵文化財年報Vol. 6 1991年度	福岡市教育委員会	1993
弥生時代の墓制を考える 齋棺墓・木棺墓・墳丘墓の成立と展開	宗像市教育委員会	1993
大野城市の文化財<第25集>	大野城市教育委員会	1993
九州文化史研究所紀要	九州大学文学部九州文化史研究施設	1993
文明のクロスワード第43号	博物館等建設推進九州会議	1993
文明のクロスワード第44号	博物館等建設推進九州会議	1993
第3回企画展図録 弥生人の祈り、免田式土器の謎	熊本県立装飾古墳館	1993
第4回企画展図録 器は語る 須恵器の美と技と	熊本県立装飾古墳館	1994
熊本県立装飾古墳館 研究紀要第1集	熊本県立装飾古墳館	1992
遺跡が語る大分の歴史 大分県の埋蔵文化財	大分県教育委員会	1992
大分県近代化遺産一覧	大分県教育委員会	1993
大分県埋蔵文化財年報	大分県教育委員会	1993
神々の姿	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	1993
白水郎会報第12号	坂ノ市地区郷土史愛好会	1993
津久見市の文化財	津久見市教育委員会	1993
佐賀閑町文化財速吸の郷	佐賀閑町長 赤瀬 孝夫	1993
佐賀閑子ども風土記さがのせきむかしむかし	佐賀閑町長 赤瀬 孝夫	1993
宮崎の遺跡1982-1991	宮崎県教育委員会	1993
鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報VII 平成4年度	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1993
地域総合研究	鹿児島経済大学地域総合研究所	1993



### 文化財愛護シンボルマーク

ひろげた両手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗拱（ますぐみ）のイメージを表し、これを三つ重ねることによって、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

（昭和41年5月26日決定）

---

### 大分市埋蔵文化財調査年報 5

1994

発行日  
平成6年12月31日  
編集・発行

大分市教育委員会文化振興課文化財室

大分市荷揚町2番31号  
〒870 (0975) 34-6111

印刷  
大分市府内町1丁目6-29  
（株）中央印刷

---